

366A

1383

電信寫

Handwritten: *Handwritten*
May 20, 1941
"Japanese draft"

(21)

1383

外機密

1383

日本側對案

昭和十六年五月十二日附野村大使宛電報寫

兩國了解(案)

日本國政府及米國政府ハ兩國間ノ傳統的友好關係ノ回復ヲ目的ト
スル全般的協定ヲ交渉シ且之ヲ締結センカ爲茲ニ共同ノ責任ヲ受
諾ス

兩國政府ハ兩國國交ノ最近ノ疎隔ノ原因ニ付テハ特ニ之ヲ論議ス
ルコトナク兩國民間ノ友好的感情ヲ惡化スルニ至リタル事件ノ再

發ヲ防止シ其ノ不測ノ發展ヲ制止スルコトヲ衷心ヨリ希望ス

兩國共同ノ努力ニ依リ太平洋ニ道義ニ基ク平和ヲ樹立シ兩國間ノ
懇切ナル友好的了解ヲ速ニ完成スルコトニ依リ文明ヲ覆没セント
スル悲シムヘキ混亂ノ脅威ヲ一掃センコト若シ其ノ不可能ナルニ
於テハ速ニ之ヲ擴大セシメサランコトハ兩國政府ノ切實ニ希望ス
ル所ナリトス

前記ノ決定的行動ノ爲ニハ長期ノ交渉ハ不適當ニシテ又優柔不斷
ナルニ鑑ミ茲ニ全般的協定ヲ成立セシムル爲兩國政府ヲ道義的ニ
拘束シ其ノ行爲ヲ規律スヘキ適當ナル手段トシテ文書ヲ作成スル
コトヲ提議スルモノナリ

IMT 265

324

IMT 265

323

457-1

367A

1383

電信寫

367

1383

外機密

3

右ノ如キ了解ハ之ヲ緊急ナル重要問題ニ限局シ會議ノ審議ニ譲リ
 後ニ適宜兩國政府間ニ於テ確認シ得ヘキ附隨の事項ハ之ヲ含マシ
 メサルヲ適當トス
 兩國政府間ノ關係ハ左記ノ諸點ニ付事態ヲ明瞭ニシ又ハ之ヲ改善
 シ得ルニ於テハ著シク調整シ得ヘシト認メラル
 一 日米兩國ノ抱懷スル國際觀念竝ニ國家觀念
 二 歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度
 三 支那事變ニ對スル兩國政府ノ關係
 四 兩國間ノ通商
 五 南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟的活動

六 太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國政府ノ方針
 前述ノ事情ヨリ茲ニ左記ノ了解ニ到達シタリ
 一 日米兩國ノ抱懷スル國際觀念及國家觀念
 日米兩國政府ハ相互ニ其ノ對等ノ獨立國ニシテ相隣接スル太平
 洋強國タルコトヲ承認ス
 兩國政府ハ恒久ノ平和ヲ確立シ兩國間ニ相互ノ尊敬ニ基ク信頼
 ト協力ノ新時代ヲ創サンコトヲ希望スル事實ニ於テ兩國ノ國策
 ノ一致スルコトヲ願明セントス
 兩國政府ハ各屬竝ニ各人種ハ相據リテ八紘一宇ヲ爲シ等シク權
 利ヲ享有シ相互ノ利益ハ之ヲ平和的方法ニ依リ調節シ精神的竝

IMT 265

326

IMT 265

325

458

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

外機密

1383

電信寫

368

1383

368A

ニ物質的ノ福祉ヲ追求シ之ヲ自ラ擁護スルト共ニ之ヲ破壞セサルヘク且後進民族ノ抑壓又ハ擄取ヲ排撃スヘキ責任ヲ容認スルコトハ兩國政府ノ傳統的篤信ナルコトヲ闡明ス

兩國政府ハ相互ニ兩國固有ノ傳統ニ基ク國家觀念及社會的秩序竝ニ國家生活ノ基礎タル道義の原則ヲ保持スヘク之ニ反スル外來思想ノ跳梁ヲ許容セサルノ鞏固ナル決意ヲ有ス

ニ歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

日本及米國政府ハ世界平和ノ招來ヲ共同ノ目標トシ相協力シテ歐洲戰爭ノ擴大ヲ防止スルノミナラス其ノ速カナル平和克復ニ努力ス

日本國政府ハ樞軸同盟カ防禦的ニシテ現ニ歐洲戰爭ニ參入シ居ラサル國家ノ戰爭參加ヲ防止スルニ在ルモノナルコトヲ闡明ス

日葡伊三國條約ニ基ク軍事的援助義務ハ同條約第三條ニ規定セラルル場合ニ於テ發動セラルルモノナルコト勿論ナルコトヲ闡明ス

米國政府ハ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ハ現在及將來ニ於テ一方ノ國ヲ援助シテ他方ヲ攻撃セントスルカ如キ攻撃的施策ニ出テサルヘキコトヲ闡明ス米國政府ハ戰爭ヲ豫想スルコトニ於テ率固タルモノアリ從テ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ハ現在及將來ニ亘リ專ラ自國ノ福祉ト安全トヲ防衛スルノ考慮ニ依リテノミ決

IMT 265

328

IMT 265

327

459

REEL No. A-0287

外機密

1383

セラルハキモノナルコトヲ闡明シ
 三 支那專權ニ對スル兩國政府ノ關係
 米國政府ハ近衛聲明ニ示サレタル三原則及右ニ基キ南京政府ト
 締結セラレタル條約及三滿支共同宣言ニ明示セラレタル原則ヲ
 承認シ且モ本政府ノ善隣友好ノ政策ニ信賴シ直ニ蔣政權ニ對シ
 和平ノ勸告ヲ爲スヘシ

四 兩國間ノ通商

今次ノ了解成立シ兩國政府之ヲ承認シタルトキハ日米兩國ハ各
 其ノ必要トスル物資ヲ相手國カ有スル場合相手國ヨリ之ヲ確保
 ヲ保證セララルモノトス支兩國政府ハ嘗テ三米通商條約有效期

電信寫

369

1383

間ニ存在シタルナリ如キ正常ノ通商關係ヘノ復歸ノ爲適當ナル方
 法ヲ講ニルモノトス尙兩國政府ハ新通商條約ノ締結ヲ欲スルト
 キハ日米會議ニ於テ之ヲ考究シ適當ノ慣例ニ從ヒ之ヲ締結スル
 モトス

五 南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟活動

日本ノ南西太平洋方面ニ於ケル發展ハ平和的手段ニ依ルモノナ
 ルニシテノ闡明セラレタルニ鑑ミ日本ノ欲スル同方面ニ於ケル資
 源例ヘハ石油、鐵礦、錫、一ニツケル等ノ物資ノ生産及獲得

ニ關シ米國側ハ之ニ協力スルモノトス

六 太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國ノ方針

369A

IMT 265

330

IMT 265

329

460

外機密

1383

電信寫

370

A、日米兩國政府ハ比島ヲシテ永久中立ヲ保持セシムルコト及
同島ニ於テ日本國民ニ對シ差別待遇ヲ爲ササルコトヲ條件ト
シテ其ノ獨立ヲ共同ニ保障ス

B、米國ニ對スル日本移民ハ友好的ニ考慮セテ他國民ト同等
無差別ノ待遇ヲ與ヘラルヘシ

附則

本了解事項ハ兩國政府間ノ秘密契約トス本了解事項發表ノ純
國性質及時期ハ兩國政府間ニ於テ協定スルモノトス(了)

INT 265

331

461

371A

1383

電信

391

第三ノ内

1383 205

外機密

Chit J. Kawana

兩國世條案

日本國政府及米國政府兩國間ノ傳統的友好關係ノ回復ヲ目的トス

ル全般的協定ヲ交渉シ且之ヲ締結センカ爲茲ニ共同ノ責任ヲ受諾

ス

兩國政府ハ兩國國交ノ最近ノ疎隔ノ原因ニ付テハ特ニ之ヲ論議ス

ルコトナク兩國民間ノ友好的感情ヲ惡化スルニ至リタル事件ノ再

發ヲ防止シ其ノ不測ノ發展ヲ制止スルコトヲ衷心ヨリ希望ス

兩國共同ノ努力ニ依リ太平洋ニ道義ニ基ク平和ヲ樹立シ兩國間ノ

懇切ナル友好的交渉ヲ速ニ完成スルコトニ依リ文明ヲ浸透セント

スル悲シムヘキ混亂ノ脅威ヲ一掃センコト若シ其ノ不可能ナルニ

於テハ速ニ之ヲ擴大セシメサランコトハ兩國政府ノ切實ニ希望ス

ル所ナリトス

前記ノ決定的行動ノ爲ニハ長期ノ交渉ハ不適當ニシテ又優柔不斷

ナルニ鑑ミ茲ニ全般的協定ヲ成立セシムル爲兩國政府ヲ道義的ニ

拘束シ其ノ行爲ヲ規律スヘキ適當ナル手段トシテ文書ヲ作成スル

コトヲ提議スルモノナリ

右ノ如キ了解ハ之ヲ緊急ナル重要問題ニ限局シ會議ノ容議ニ關リ

後ニ適宜兩國政府間ニ於テ確認シ得ヘキ附隨的事項ハ之ヲ含マン

INT 265

306

INT 265

305

462

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

外機密

1383

電信寫

372

メサルヲ適當トス

兩國政府間ノ關係ハ左記ノ諸點ニ付專斷ヲ明瞭ニシ又ハ之ヲ改善
シ得ルニ於テハ著シク調整シ得ヘント認メラル

一、日米兩國ノ抱懷スル國際觀念竝ニ國家觀念

二、歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

三、支那事變ニ對スル兩國政府ノ關係

四、太平洋ニ於ケル海軍兵力及航空兵力並ニ海運關係

五、兩國間ノ通商及金融提携

六、南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟的活動

七、太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國政府ノ方針十續之

IMT 265

307

463

外機密

1383

電信寫

313

1383

373A

昭和五 一〇三三

華府 四月十七日前發
本省 十七日夜附

野村木傳

外機密 館長符號成

前記ノ事情ヨリ茲ニ左記ノ了解ニ到達シタリ希テ米國政府ト
修正ヲ願タル後日本海軍政府ノ最終的且公式ノ決定ニ俟ツヘキモノ

一、日米兩國ノ抱懷スル國際觀念及國家觀念

日米兩國政府ハ相互ニ其ノ對等ノ獨立國ニシテ相隣接スル太平洋
洋強國タルコトヲ承認ス

兩國政府ハ恒久ノ平和ヲ確立シ兩國間ニ相互ノ尊敬ニ基ク信賴

ト協力ノ新時代ヲ劃サンコトヲ希望スル事實ニ於テ兩國ノ策
ノ一致スルコトヲ闡明セントス

兩國政府ハ各國並ニ各人種ハ相據リテ八紘一字ヲ爲シ等シク權
利ヲ享有シ相互ノ利益ハ之ヲ平和的方法ニ依リ調節シ精神の並

ニ物質的ノ福祉ヲ追求シ之ヲ自ラ擁護スルト共ニ之ヲ破壞セサ
ルヘク責任ヲ容認スルコトハ兩國政府ノ傳統的確信ナルコトヲ
闡明ス

兩國政府ハ相互ニ兩國固有ノ傳統ニ基ク國家觀念及社會的秩序
並ニ國家生活ノ基礎タル道義的の原則ヲ保持スヘク之ニ反スル外
來思想ノ跳梁ヲ許容セサルノ鞏固ナル決意ヲ有ス
ニ歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

IMT 265

309

IMT 265

308

464

電信寫

374

外機密

1383

他心行
要小
下

日本及米國政府世界平和招来ヲ共同目標ト相協力シ歐洲
 戰爭格大ニ防止スルニ其速カク平和克復ニ努力カス
 日本國政府ハ樞軸同盟ノ防禦的ニシテ現ニ歐洲戰爭ニ參
 入シ居ラサル國家ニ其進退後關係ヲ極大ニシテ防止スル
 ニ在ルモノナルコトヲ闡明ス

日本國政府其ノ現在ノ條約上ノ義務ヲ免レントシテカ如キ意圖
 日独伊三國條約的援助 同條約第一條
 ヲ有スルニ尤モ樞軸同盟ニ其ノ軍事上ノ義務ハ該同盟條約國發達
 ニ規定セラルル場合ニ於テ
 為現ニ歐洲戰爭ニ參入シ居ラサル國家ニ依リ積極的ニ攻撃セザリ
 タル場合ニ於テイモ變動ヌルモノナルコトヲ闡明ス

JMT 265

310

465

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

375A

1383

電信寫

375

1383

外機密

日、支那領土へノ日本ノ大畧的又ハ集團的移民ノ自制
 只滿洲國ノ承認
 F、蔣政權ト汪政府トノ合流
 G、支那領土へノ日本ノ大畧的又ハ集團的移民ノ自制
 H、滿洲國ノ承認

米國大統領ハ左記條件ニ對シ且日本國政府ハ左記條件ニ對シ
 米國政府ハ近衛聲明ニ示セタル三原則及右ニ基キ
 南京政府ト締結セタル條約及日滿支共同宣言ニ明
 示セタル三原則ヲ承認シ且日本政府ハ善隣友好ノ
 政策ニ信賴シ直ニ蔣政權ニ對シ和平ノ勸告ヲ為ス
 且門戶開放方針ノ復進但シ之ヲ解釋及適用ニ關シテハ將來適當ノ時
 期ニ日米兩國間ニ於テ協議セラレハキモノトス

INT 265

312

INT 265

311

466

電信寫

376

取
別
文
書

外機密

1383

府政體ニ於テ米國大統領ノ勸告ニ應ジタルトキハ日本
統一樹立セラルヘキ支那政府ヲ掃成スヘキ分子ヲ
ニ直接ニ和平交渉ヲ開スルモノトス

米國大統領ハ日本國政府力
新提議ノ原則ニ
並存條件ニ基キ支那上直接和平交渉ニ入ル用意アリ
了承先依リ將權ニ對シ和平勸告ヲ為ス

△註 支那不復場合ニハ援將行爲ヲ止ム事有(西文書)
ニ依リ要スル約セラルト

INT 265

313

467

REEL No. A-0287

外機密

昭和18 一〇三一七 (一)

華府 四月十七日 前發
本省 十八日 前發

野村大使

電信寫

C. 若劇隊 如荷下
七、八、九、日 米
國之改裝 係
亦於予期 完
ルニ至ラス 本境
書中ニ於テ 不
三、四、五、六、七、八、九、日 米
怒ヲ極メ 予期
但シ、A、C 別箇 獨立
ノ支書トシテ 奉送ス

野村外務大臣
第二十三回 閣議 議決 外務省
米米海軍ニ於テ 海軍力及航空兵力並ニ海軍關係
ハ、日本兩國ハ 太平洋ノ半部ヲ 海軍ニシテ コトヲ 欲スルヲ 以テ 相
互ニ 他方ヲ 警戒スルカ 爲メ 海軍兵力 及航空兵力ノ 配備ハ 之ヲ
持テ サルモノト ス 右ニ 述スル 目的ノ 趣目ハ 之ヲ 日米同ノ 協
議ニ 照シテ 行ハルモノト ス
ニ 他方ヲ 訪問セシメ 以テ 太平洋ニ 平和ノ 到來シタルコトヲ 確

又本軍機 係
案第 五 後
松元 少將 係
效果 係
後 係

クモノトス

支那 軍機 係 決メ 着キタルトキハ 日本 國政府 ハ 米 國政府
ノ 指圖ニ 應ジ 現ニ 就 彼ノ 自 國 船舶ニシテ 離 彼シ 得ルモノヲ
專ニ 不 通トシ 米 國ニ 對シテ 太平洋ニ 於テ 離 彼セシムル
條 件 既 スルコトヲ 承認ス 且 其ノ 條 件ハ 日 米 會 談ニ 於テ 之
ヲ 決定スルモノト ス

或 兩國 間ノ 通商 係

今天ノ 了解 既 立シ 兩國 政府之ヲ 承認シタルトキハ 日 米 兩國ハ 各
其ノ 必要トスル 物資ヲ 相手 國カ 有スル 場合 相手 國ヨリ 之カ 確保
ヲ 保證セラルルモノト ス 又 兩國 政府ハ 當テ 日 米 通商 條約 有效 期
間中 存在シタルカ 如キ 正常ノ 通商 關係ヘノ 復 歸ノ 爲メ 奮 奮ナル方

IMT 265

315

IMT 265

314

467-1

外機密

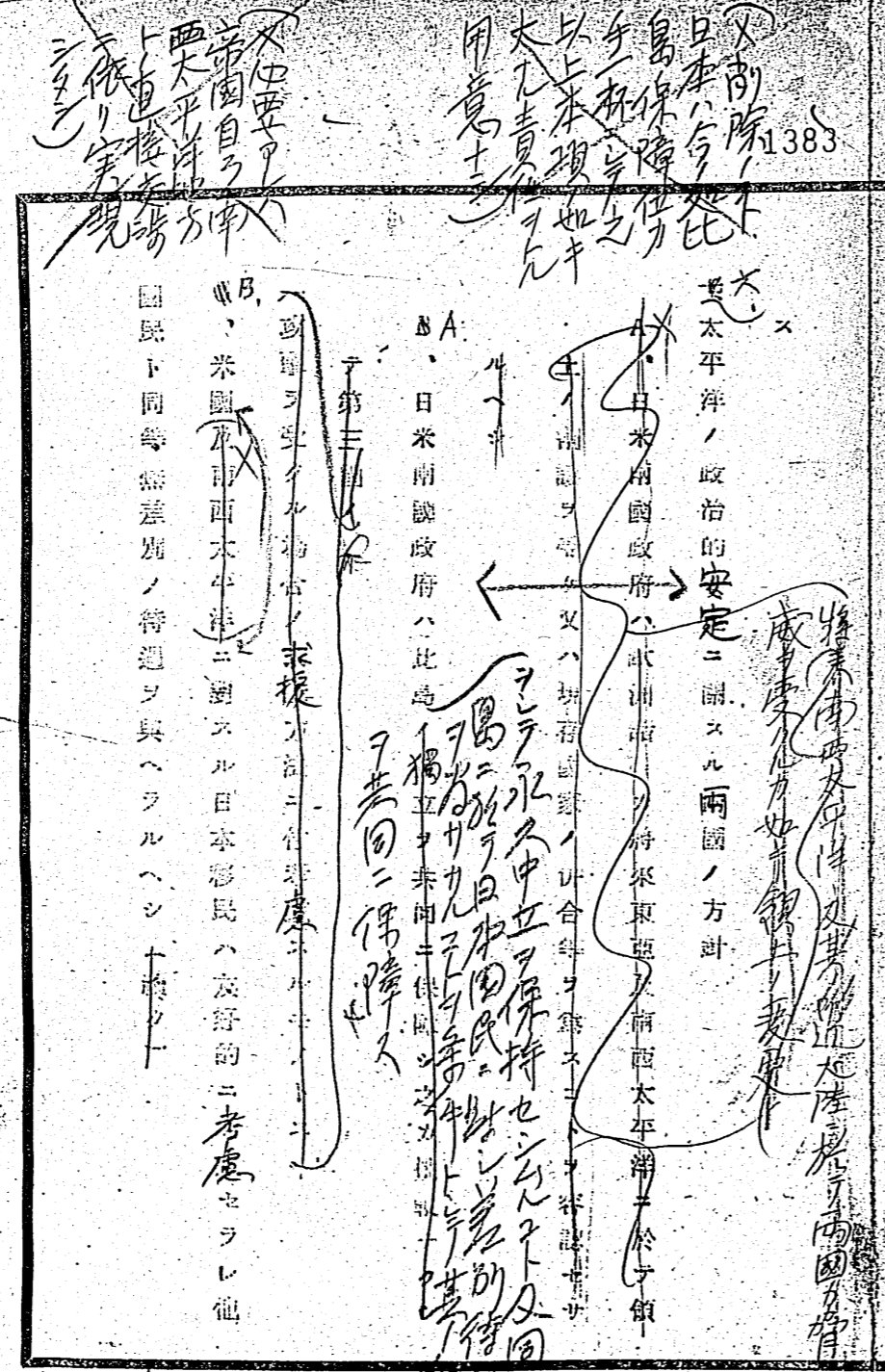
1383

電信寫

378

378A

法ヲ斷スルモノトス尙兩國政府ハ新通商條約ノ締結ヲ欲スルト
 キハ日米會議ニ於テ之ヲ考究シ通常ノ慣例ニ從ヒ之ヲ締結スル
 モノトス
 兩國間ノ經濟提携促進ノ爲木願ハ日本ニ對シ東亞ニ於ケル經濟
 狀態ノ改善ヲ目的トスル商工業ノ發達及日米經濟提携ヲ實現ス
 ルニ足ル金一クレオット一ヲ供給スルモノトス
 五、南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟活動
 日本ノ南西太平洋方面ニ於ケル發展ハ抵抗力ヲ示スルコトヲ
 和的手段ニ依ルモノナルコトヲ保障セラレタルニ鑑ミ日本ノ欲
 スル同方面ニ於ケル資源例ハ石油、錫、一ニツケル一
 等ノ物資ノ生産及獲得ニ關シ米國側ニ協力及支持ヲ得ルモノト



468

316

IMT 265

317

IMT 265

380A

1383

電信寫

380

極秘

(30) 1383

日本國政府ノ附屬追加書

ニ日支間ノ和平解決ニ對スル措置

本項ニ所謂基本條件トハ左ノ如シ

(一) 善隣友好

(二) (有害ナル共產運動ニ對スル共同防衛) 支那領土内ニ於ケル

日本軍隊ノ駐屯ヲ含ム

今後更ニ討議決定スヘシ

(三) (經濟的協力) 國際通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ヲ

本號ニ適用スルコトニ付テノ交換公文ニ關スル合意ニ依リ決

定スルモノトス

(四) 善隣國トシテ協力シツアリ且世界平和ニ貢獻スヘキ東亞ノ

中核ヲ形成スヘキ各國民固有ノ特質ニ對スル相互尊重

(五) 出來得ル限り速カニ且日支間ニ締結セラルヘキ協定ニ遵ヒ支

那領土ヨリ日本ノ武力ヲ撤退スヘキコト

内非併合

(七) 無賠償

(八) 滿洲國ニ關スル友誼的交渉

IMT 265

321

IMT 265

320

470

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

外機密

1383

電信寫

381

合衆國政府ノ附屬追加書

兩國間ノ通商

現下ノ國際的非常事態ノ繼續中日本國及合衆國ハ相互ニ通常ノ
 又ハ戰前ノ貿易ノ數量ニ達スル迄物資ノ輸出ヲ許可スヘシ尤モ
 何レノ國ノ場合ニ於テモ自國ノ安全及自衛目的ノタメ必要トス
 ル物資ニ付テハ例外トス、右制限ハ各政府ノ義務ヲ明瞭ナラシ
 ムル爲之ヲ掲ケタリ、右ハ相手國政府ニ對スル制限ヲ目的トス
 ルモノニ非ス且兩國政府ハ友好國トノ關係ヲ支配シツツアルモ
 神ニ依リ斯カル規則ヲ適用スルモノトス

IMT 265

322

471

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

382A

1383

電信寫

382

oral statement of USA Secretary of State on June 21, 1941

1383

外機密

「オーラル、ステートメント」

一九四一年六月二十一日

國務長官ハ日米兩國間ニ一層良好ナル了解ヲ招來シ且太平洋地域ニ於テ平和ヲ樹立スルタメ日本大使及其ノ同僚（複數）ニ依リ爲サシタル眞摯ナル努力ヲ多トス、同長官ハ又屢次ノ會談ヲ通シ之等ノ人々ノ態度ヲ特徴ツケタル率直サヲ多トス

本政府ハ日米兩國間ニ一層良好ナル關係及太平洋地域ニ於ケル平和状態ノ招來ヲ念願スルコトニ於テ日本大使ニ劣ラス且國務長官ハ右精神ニ於テ日本側提案ノ有ラユル觀點ニ付慎重ナル研究ヲ爲セリ

國務長官ハ多數日本ノ指導者カ上述セルカ如キ日本大使及其ノ同僚（複數）ノ見解ト所見ヲ同シクセラレ且之等崇高ナル目的達成ノタメノ行動ヲ支持セラルルナランコトヲ疑フ理由ヲ有セス、不幸ニシテ政府ノ有力ナル地位ニ在ル日本ノ指導者中ニハ國家社會主義ノ獨逸及其ノ征服政策ノ支持ヲ要望スル進路ニ對シ拔差シナラサル誓約ヲ與ヘ居ルモノアルコト及之等ノ人カ是認スヘキ合衆國トノ了解ノ唯一ノ種類ハ合衆國方自衛ニ関スル現在ノ政策ヲ實行スルコトニ依リ歐洲ノ戰鬪行爲ニ捲込マルルカ如キ場合ニハ日本カ「ヒトラ」ノ側ニ於テ戰フコトヲ豫見スルカ如キナルヘントノ確證カ長年ニ亘リ日本ニ對シ眞摯ナル好意ヲ表シ來レル筋ヨリノ報告ヲ含ム世界中有ラユル筋ヨリ益々本政府ニ違シツツアリ

IMT 265

287

IMT 265

286

472

外機密

1383

日本國政府ノ「スポーツスマン」ニ依リ何等理由ナキニモ拘ラズ
 爲サレタル三國同盟ノ下ニ於ケル日本ノ誓約及意圖ヲ強調セル最
 近ノ公式聲明（複數）ノ論調ハ、看過シ得サル或ル態度ヲ例證シ
 居レリ、斯カル指導者達カ公ノ地位ニ於テ斯カル態度ヲ維持シ且
 公然ト日本ノ輿論ヲ上述ノ方向ニ動かサント努ムル限リ現在考究
 中ノ如キ提案ノ採擇カ希望セララルル方向ニ沿ヒ實質的結果ヲ收ム
 ルタメノ基礎ヲ提供スヘシト期待スルハ幻滅ヲ感セシムルコトト
 ナルニ非スヤ

電信寫

383

3

1383

ヘキ規定ヲ挿入セシメントスル日本國政府ノ要望ニ關スルモノナ
 リ
 本政府ハ日本國政府ヲシテ斯カル提案ヲ爲スニ至ラシメタル考量
 ニ關シ慎重ナル考究ヲ拂ヒタルト共ニ斯カル提案ノ實質ニ付論議
 スルヲ欲セサルモ、日本大使及其ノ同僚（複數）ニ對シ幾多ノ場
 合ニ於テ説明セルカ如ク合衆國カ堅持スル自由主義的諸政策ハ、米國
 政府ヲシテ之等ノ政策ト矛盾スルカ如ク思ハルル如何ナル進路ニ
 モ同調スルヲ許ササルモノト思惟ス、更ニ又單ニ當國ノニ影響
 アル事柄ニ關シテハ權利賦與ノ決定上若干ノ裁量ノ餘地アリト雖
 モ、茲ニ審議中ノ事項ハ第三國ノ主權ニ影響スルモノナルヲ以テ
 本政府ハ斯カル事項ヲ處理スルニ當リテハ最モ慎重ヲ要スルヲ

383A

IMT 265

289

IMT 265

288

473

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

外機密

1383

電信寫

384

スト感セラル

故ニ國務長官ハ本政府ハ日本國政府カ全體トシテ了解案ノ目的ヲ
構成スルカ如キ平和的進路ノ追及ヲ希望スルモノナルコトニ關シ
現在迄ニ與ヘラレタルヨリモ一層明白ナル何等カノ指示ヲ期待セ
サルヲ得ストノ結論ニ遺憾乍ラ到達セリ、本政府ハ日本國政府カ
斯カル態度ヲ表明セラレンコトヲ眞ニ希望スルモノナリ

註一 米國ノ態度ノ關スル限リ現會談ヲ最新ノ事態ニ合致センメ

△カ爲五月三十一日日本大使ニ手交セラレタル「非公式」

試案ニシテ拘束力ナシト記載セル文書ニ對スル六月二十

一日附ノ修正案ヲ別ニ日本大使ニ手交スルコトトセリ

IMT 265

290

474

385A

1383

電信寫

385

極秘

1383

外機密

*Une demande
de renseignements*

日本はニ爲スル米朝ノ主ナル修正

第一 前文中ノ修正

米朝ハ前文中ノ修正ヲシテシムルハナリトシテ前文中ノ修正中ニ二三ノ修正ナル修正ヲ施セルカガ實質的ニハ大ナル影響ナシ

第二 本文中ノ修正

前文中ノ修正及本文中ノ修正ニ關シ日本米朝間ノ交渉スルニ於テ日本軍ニ在リタル第一節「日本米朝間政府ハ相互ニ兵ノ削減ノ事ヲ議ニシテ相互ニ協スル大卒洋兵削減タルニトシテ米朝間スルハ米朝間ノ交渉ヲ妥協スルモトシテ之ヲ解決シ得レリ

第二節ニハ既叙明ニシタルナシ

第三節ニ於ケル「修憲比威」ナル語ハ人種及民族ノ平等ノ原理

ニ矛盾セザル様「他民族」ナル語ニ對シテ與セラルベシナリ

第四節ニハ既叙明ナシ

三 歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

日本は第一節「日本及米朝政府ハ世界平和ノ招來ヲ其ノ第一ノ目的トシテ相協力シテ歐洲戰爭ノ擴大ヲ防止スルノミナラズ其ノ後カナル平和相克復ニ努力スルハ米朝政府ハ未ダ歐洲ニ於ケル平和招來ノタメ努力スル時機ニ非ストスル大總統領事等ノ任務ニ對シテスル方加キ同級ヲ與アルモノトシテ之ヲ消除シ來レリ

IMT 265

132

IMT 266

131

475

外機密

1383

電信寫

386

1383

386A

日本案ノ第二節「日本國政府ハ親軸國トノ同盟ハ防衛的ニシテ
 現ニ歐洲戰爭ニ參入シ居ラサル國家ノ戰爭參加ヲ防止スルニ在
 ルモノナルコトヲ闡明ス」ニ對シ米國ハ「日本國政府ハ三國同
 盟ノ目的カ達去ニ於テモ又現在ニ於テモ防衛的ニシテ戰爭ニ依
 ラサル歐洲戰爭ノ擴大防止ニ善與セントスルニ在ルモノナルコ
 トヲ闡明ス」ナル修正案ヲ提示シ來レリ（右修正理由ハ自衛行
 爲ニ基ク參戰ヲ除外セントスル意圖ナリヤニ認メラル）

日本案ノ第三節「日獨伊三國條約ニ基ク軍事的援助義務ハ同條
 約第三條ニ規定セララルル場合ニ於テ發動セララルルモノナルコト
 勿論ナルコトヲ闡明ス」ハ三國同盟ノ「テキスト」ハ既ニ公表
 セラレ居リ從テ同條約ニ基ク日本ノ義務ハ一覽ニ知ラレ居ルヲ
 以テ特ニ同條約ノ條項ヲ本了解ニ援用スルモ實ニナシトス理由
 ニテ之ヲ削除シ來レリ

日本案ノ第四節「米國政府ハ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ハ現在
 及將來ニ於テ一方ノ國ヲ援助シテ他方ヲ攻撃セントスルカ如キ
 攻撃的施策ニ出テサルヘキコトヲ闡明ス米國政府ハ戰爭ヲ厭惡
 スルコトニ於テ牢固タルモノアリ從テ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態
 度ハ現在及將來ニ亘リ寧ラ自國ノ福祉ト安全トヲ防衛スルノ考
 慮ニ依リテノミ決セララルヘキモノナルコトヲ闡明ス」ハ「米國
 政府ハ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ハ現在及將來ニ亘リ防衛自
 衛即チ自國ノ安全ト之カ防衛ノ考慮ニ依リテノミ決セララルヘキ
 モノナルコトヲ闡明ス」ニ修正シ來レリ而シテ其ノ理由トシテ

IMT 265

134

IMT 265

133

476

外機密

1383

電信寫

387

1383

387A

歐州戦争ニ對スル米國ノ態度ノ防衛的及自衛的性質ヲ強調スル
爲ナリト稱ス

尙本項ニ關聯シ米國ハ自衛權ニ關スル交換公文案ヲ提案セルモ
在米大使ハ右ハ我々方意見トノ關テ大ナルヲ以テ之ヲ東京政府ニ
取次キ得サル旨國務院ニ明言スルトコアリタリ

三、日支間ノ和平解決ニ對スル時局

本項ノ見出「支那事變ニ對スル諸國政府ノ關係」ハ内容ニ一層
正確ニ適應セシムル爲ナリトシテ變更セラレタリ

日本案「米國政府ハ近衛聲明ニ示サレタル三原則及右ニ基キ東
京政府ト締結セラレタル締約及日露支共同宣言ニ明示セラレタ

ル原則ヲ了承シ且日本政府ノ善隣友好ノ政策ニ自認シ直ニ影響
與ニ對シ和平ノ關係ヲ爲スヘシ」ト「日本國政府ハ米國政府ニ
對シ日本政府カ支那政府トノ和平解決交渉ヲ提案スヘキ場合ノ
骨組的一般條件即チ日本國政府ノ聲明スルトコロニ依レハ善隣
友好、主權及領土ノ相互尊重ニ關スル近衛原則及三原則ノ實
際的適用ニ矛盾セサルヘキモノナル條件ヲ連報シタルヲ以テ米
國大統領ハ支那政府及日本政府カ相互ニ利益ヲ受ケ且受給シ得
ヘキ基礎ニ於テ誠實ノ行爲ノ締結及平和關係ノ發展ノ爲メノ交渉
ニ入ル後支那政府ニ建議スヘシ」ニ修正シ來レリ此ノ修正カ
正理由トシテハ日本案ノ根本案ヲ變更スルコトナシ他諸案並同
トシテ国内的ニ物議ヲ醸スカ加テ俄アル問題ヲ惹起セシメタリ

IMT 265

136

IMT 265

135

477

外機密

1383

電信寫

388

1383

388A

ントスルニ在リト爲ス

尙本項ノ案文ノ最終的決定ハ支那領土ニ於ケル日本軍隊ノ駐屯
問題ヲ含テ防共問題及日支間ノ經濟的協力ニ關スル今後ノ審議
ニ依存スヘキ處日本附屬書X列記ノ和平條件カ確定シ本項及
同附屬書ヲ一括檢討シ得ルニ至リタル上ニテ審議スルカ最好都
合ナルヘントノ註ヲ附シ來レリ

更ニ又米側ハ日本附屬書ニ於ケル和平條件ニ關シ修正ヲ加ヘ
來レルカ其ノ主要ナルハ(一)「經濟的協力」ニ關シ日本及支那カ
其ノ經濟關係ニ於テ國際通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ
違フ意圖ナルコトヲ明瞭ナラシムル爲日米間ニ公文ヲ交換スヘ
キコトヲ提案シ來レルニ對シ在米大使ハ東京政府ニ照

次キ得ザル旨國務長官ニ明言セル趣ナリ

又抑々ノ原案ニハ支那ノ滿洲國承認ナル項アリタルカ米側ハ之
ヲ「滿洲國ニ關スル友誼的交渉」ナル字句ニ修正シ原案ニ在リ
タル「蔣政權ト汪政權ノ合流」ナル項目ハ削除セラレタリ

頃國圖問ノ通商

日本案ニ殆ト修正ナシ

但シ米側ハ米側附屬書中ニ本項ニ關シ「現下ノ日支間ノ非常關係
ノ繼續中日本及米國ハ相互ニ適當ノ又ハ必要ノ貿易ノ促進ニ
スル途向實ノ輸出ヲ許可スヘシ尤モ何レノ國ノ都合ニ於テ米自
國ノ安全及自衛目的ノタメ必要トスル物資ニ付テハ例外トス

JMT 265

138

JMT 265

137

478

外機密

1383

電信寫

389

1383

389A

右開紙、各政府ノ義務ヲ明瞭ナラシムル爲之ヲ撰ケ、右ノ
 指手圖政府ニ對スル制限ヲ目的トスルモノニ非ス、且前圖政府ハ
 友好國トノ關係ヲ支配シツツアル範圍ニ依リ斯カル規則ヲ適用
 スルモノトス、トノ意見ヲ附シ居レリ
 太平洋地域ニ於ル爾前ノ經濟的活動
 本項ノ適用範圍トシテ南西太平洋トアリタルヲ第六項カ太平洋
 全體ノ政治的安定ヲ規定シ居ルニ對應セシムル爲ナリトシテ米側
 ハ「南西」ヲ削除セリ
 又日本側「日本ノ南西太平洋方面ニ於ケル發展ハ平和的手段ニ
 依ルモノナルコトノ範圍セラレタルニ對シ日本ノ欲スル南方面
 ニ於ケル資源例ハ石油、鐵、銅、ニツケル」等ノ條、
 生産及獲得ニ關シ米側側ハ之ニ協力スルモノトス、
 方面ニ於ケル日本國及米國ノ活動ハ平和的手段ニ依リ且國際
 關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ遵ヒ行ハルヘキ旨ノ相互的
 義務ニ與ヘラレ在基盤ニ於テ日本國政府及米國政府ハ兩國カ
 夫々自國經濟ノ保全及發達ノタメ必與トスル天然資源(例ヘハ
 石油、鐵、銅、「ニツケル」)ノ商業上ノ供給ニ付無差別
 均等ヲ得ル爲メ相互ニ協力スヘキコトヲ約ス、
 修正、
 且、而シテ之カ理由ハ日米兩國ニ等シク適用シ得ル爲メニ
 力爲ナリト稱ス

IMT 265

140

IMT 265

139

479

外機密

1383

電信寫

390

1383

390A

太平洋地域ニ於ケル政治的安定ニ關スル兩國ノ方針

米側ハ抑々ノ原案中ノ「A」日米兩國政府ハ歐洲諸國カ將來東
亞及南西太平洋ニ於テ領土ノ割譲ヲ受ケ又ハ現存國家ノ併合等
ヲ爲スコトヲ容認セサルヘシ」ノ項ヲ我方ニ於テ削除セル懸緯
アルカ今次米側案ニ於テハ左ノ規定ヲ爲セリ

「兩國政府ハ本了解ノ基調ヲ爲ス支配的方針ハ太平洋地域ニ於
ケル平和ナルコト、協力的努力ニ依リ太平洋地域ニ於ケル平和
ノ維持並ニ保全ニ貢獻スルハ兩國政府ノ根本目的ナルコト及南
國ノ何レモ前記地域ニ於テ領土の野心ヲ有セサルコトヲ聲明ス」
而シテ其ノ理由トシテハ本了解案ノ根本目的タル太平洋ニ於ケ
ル平和維持ニ關スル日米ノ意圖ヲ簡明直截ニ規定センガ爲ナリ

ト爲ス

尙我方案ニ在リタル比島ノ中立化ハ第七項ノ獨立ノ一項トシテ
規定シ又米側ヘノ日本移民ニ關スル規定ハ移民問題ハ米側ノ國
内問題ナリトノ不動ノ方針ニ鑑ミ削除セリト稱ス

七比島ノ中立化

前述ノ通り比島ノ中立化ニ關シテハ日本案ハ第六項A、ニテ規定
セルカ、米側ハ之ヲ獨立ノ一項トセル次第ナルカ、其ノ實質的規
定振ニ關スル日米案ノ差異ヲ見ルニ日本案ハ「日米兩國政府ハ比
島ヲシテ永久中立ヲ保持セシムルコト及同島ニ於テ日本國民ニ對
シ差別待遇ヲ爲ササルコトヲ條件トシテ其ノ獨立ヲ共同ニ保障ス」

IMT 265

142

IMT 265

141

480

外機密

1383

トアリタルヲ米側ハ「日本國政府ハ米國政府カ希望スル時期ニ於テ米國政府トノ間ニ將來比律賓ノ獨立カ完成セル時ニ於ケル比律賓群島ノ中立化ノタメノ條約締結ヲ目的トスル交渉ニ入ル用意アルニトシ聲明ス」ニ修正シ來タレリ。而シテ之カ修正理由トシテ米側ハ一九三四年三月二十四日ノ「タイディングス。マクダフィ」法ノ字句ニ適應セシメンカ爲メ修正ナリト稱シ居レリ。事實上ハ米側カ比島ノ中立化ヲ希望スルヤ否ヤ又之カ爲メ交渉ヲ具體的ニ何時行ハントスルモノナリヤ等本件ニ關スル事懸ハ極メテ不安定化セリ。

電信寫

391

1383

尙日本案ノ末尾ニ在リタル

「附則

本了解事項ハ兩國政府間ノ秘密覺悟トス本了解事項發表ノ純國性質及時期ハ兩國政府間ニ於テ協定スルモノトス。

ハ今次米側案ニ於テハ削除セラレタルモノモ米側ハ口頭説明ノ形式ニテ本件ニ關シ左ノ如キ「リマーク」ヲ爲シ居レリ。

「米側ノ傳統的的政策及米國ニ於ケル各種ノ實際的考慮ニ鑑ミ米國政府カ目下問題トナレシ了解ヲ其附屬書ト共ニ秘密ニ附シ置カシト努力スルモ重大ナル困難發生スルニ至ルヘシ。米國政府ハ恐ラク本了解ヲ二。三週間ノ期間ハ秘密ニ附シ置ク様措置スルコトヲ持テ右期間内ニ兩國政府ハ本了解又ハ少クトモ之カ明確ナル要

391A

INT 265

144

INT 265

143

481

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

電信寫

392

外機密

1383

旨ノ發表ニ關スル範圍、性質及時期ニ關聯セル諸般ノ手續ヲ完了スヘキモノト思考ス

INT 265

145

182

REEL No. A-0287

393A

1383

電信寫

393

1383
American winter chief
on June 22

1383

外機密

(30)

米側對案（六月二十二日在米大使取次）

（嚴秘）（非公式、試案ニシテ拘束力ナシ）

合衆國及日本國政府ハ傳統的友好關係恢復ノ爲共同宣言ニ於テ表
現セララルカ如キ了解ニ關スル一般的協定ノ交渉開始及締結ノ爲
共同ノ責任ヲ受諾ス

兩國國交ノ最近ノ疎隔ノ特定原因ニ論及スルコトナク兩國間友好
的感情惡化ノ原因トナレル事件ノ再發ヲ防止シ且其ノ不測不幸ナ
ル結果ニ付矯正ヲ圖ルコトハ兩國政府ノ衷心ヨリノ希望ナリ
共同ノ努力ニ依リ合衆國及日本國カ太平洋ニ於ケル平和ノ樹立及
保持ノタメ有效ナル貢獻ヲ爲スコト及友好的了解ヲ速ニ完成スル

コトニ依リ、世界平和ヲ助長シ且現ニ文明ヲ沒滅セントスル惧ア
ル悲シムヘキ混亂ヲ假令一掃セシムルコト不可能ナリトスルモ之
ガ惡化ヲ抑制センコトハ兩國政府ノ眞摯ナル希望ナリ
斯カル果斷ナル措置ノ爲ニハ長期ノ交渉ハ不適當ニシテ又效果薄
弱ナリ、仍テ兩國政府ハ兩國政府ヲ不取敢道義的ニ且其ノ行動ニ
關シ拘束スヘキ一般的了解ヲ成立セシメ之ヲ完成スル爲ニハ適當
ノ手段ヲ案出實施スルコトヲ希望ス
兩國政府ハ斯ル了解ニハ緊急ヲ要スル樞要問題ノミヲ包含セシメ
後日會議ノ審議ニ讓リ得ヘキ附隨的事項ハ之ヲ含マシメサルコト
然ルヘシト信ス
兩國政府ハ左ノ如キ特定ノ事態及態度ヲ明瞭ニシ又ハ改善スルニ

INT 265

271

INT 265

270

483

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

外機密

1383

電信寫

394

1383

394A

於テハ融和關係ノ達成ヲ期待シ得ヘント認ム

一 國際關係及國家ノ本質ニ關スル合衆國及日本國ノ觀念

二 歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

三 日支間ノ和平解決ニ對スル措置

四 兩國間ノ通商

五 太平洋地域ニ於ケル兩國ノ經濟的活動

六 太平洋地域ニ於ケル政治的安定ニ關スル兩國政府ノ方針

七 比律賓群島ノ中立化

因テ合衆國政府及日本國政府ハ茲ニ左ノ相互的了解及政策ノ宣言

ニ到達セリ

一 國際關係及國家ノ本質ニ關スル合衆國及日本國ノ觀念

兩國政府ハ其ノ國策ハ永續的の平和ノ樹立並ニ兩國民間ノ相互信頼及協力ノ新時代ノ創始ヲ目的トスルモノナルコトヲ確認ス

兩國政府ハ各國家及各民族カ正義及衡平ニ依ル萬邦協和ノ理想ノ下ニ生存スル一字ヲ爲ストハ其ノ傳統的及現在ニ於ケル觀念及確信ナルコトヲ聲明ス即チ平和的の手續ニ依リ規律セラレ且精神的及物質的の福祉ノ追求ヲ目的トスル相關的の利害關係ニ基キ何レモ等ク權利ヲ享有シ責任ヲ容認ス而シテ右福祉タルヤ各國家及民族カ他ノ爲ニ之ヲ毀損スヘカラサルカ如ク自ラノ爲ニ之ヲ擁護スルモノトス更ニ兩國政府ハ他ノ民族ノ抑壓又ハ擄取ヲ排撃スヘキ各自ノ責任ヲ容認ス

兩國政府ハ國家ノ本質ニ關スル各自ノ傳統的の觀念並ニ社會的の秩序

INT 265

273

INT 265

272

484

外機密

1383

395

電信寫

本試案ノ取
次ハ在米大
使之ヲ拒否
セルヲ以テ
註ノミヲ存

1383

395 A

及國家生活ニ關スル基礎的の道義の原則ハ引續キ之ヲ保存スヘク且
右道義の原則及觀念ニ反スル外來ノ思想又ハ「イデオロギー」ニ
依リ變改セシメサルコトヲ固ク決意ス

三、歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

日本國政府ハ三國條約ノ目的カ過去ニ於テモ又現在ニ於テモ防禦
的ニシテ挑發ニ依ラサル歐洲戰爭ノ擴大防止ニ寄與セントスルモ
ノナルコトヲ闡明ス

合衆國政府ハ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ハ現在及今後モ防護ト自
衛即チ自國ノ安全ト之カ防衛ノ考慮ニ依リテノミ決セラルヘキモ
ノナルコトヲ闡明ス

註、(一九四一年五月三十一日案ノ一部ヲ成セル本問題ニ關スル

合衆國政府ノ附屬追加書ノ代リトシテ茲ニ交換公文ノ試案

添付セラル)

三、日支間ノ和平解決ニ對スル措置

日本國政府ハ合衆國政府ニ對シ日本國政府カ支那國政府トノ和平
解決交渉ヲ提議スヘキ場合ニ於ケル基礎的一般條件即チ日本國政
府ノ聲明スルトコロニ依レハ善隣友好、主權及領土ノ相互尊重ニ
關スル近衛原則竝ニ右原則ノ實際的適用ニ矛盾セルモノナル條件ヲ通
報シタルヲ以テ合衆國大統領ハ支那國政府及日本國政府カ相
互ニ有利ニシテ且受諾シ得ヘキ基礎ニ於テ戰鬥行為ノ終結及平和

IMT 265

275

IMT 265

274

485

外機密

1383

電信寫

396

1383

396A

關係ノ恢復ノため交渉ニ入ル様支那國政府ニ懇請スヘシ

註。(第三項ノ前記案文ハ共產運動ニ對スル共同防衛問題(支那領土ニ於ケル日本軍隊ノ駐屯問題ヲ含ム)及日支間ノ經濟的協力ノ問題ニ關スル今後ノ討議ニ依リ變更セララルコトアルヘシ。第三項ノ案文修正ノ提議ニ關シテハ如何ナル修正提案モ本項ニ關シ附屬書ニ掲ケラレタル一切ノ點カ満足ニ起草セラレ本項及附屬書カ全體トシテ検討シ得ルニ至リタル上ニテ考究スルコト最モ好都合ナリト信ス)

四 兩國間ノ通商

本了解カ兩國政府ニ依リ公式ニ承認セラレタルトキハ合衆國及

日本國ハ兩國ノ一方カ供給シ得テ他方カ必要トスルカ如キ物資ヲ相互ニ供給スヘキコトヲ保障スヘシ兩國政府ハ更ニ嘗テ日米通商航海條約ニ基キ確立セラレ居タルカ如キ正常ノ通商關係ヲ恢復セシムルニ必要ナル措置ヲ講スルコトニ同意ス、若シ新通商條約カ兩國政府ニ依リ希望セラレルトキハ右ハ出來得ル限り速カニ交渉セラレヘク且通常ノ手續ニ從ヒ締結セラレヘシ

五 太平洋地域ニ於ケル兩國ノ經濟的活動

太平洋方面ニ於ケル日本國及米國ノ活動ハ平和的手段ニ依リ且國際通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ遵ヒ行ハルヘシトノ茲ニ爲サレタル相互的誓約ニ基キ日本國政府及合衆國政府ハ兩國カ夫々自國經濟ノ保全及發達ノため必要トスル天然資源(例

IMT 265

277

IMT 265

276

486

外機密

1383

電信寫

317

へハ石油、護謨、錫、「ニツケル」ノ商業的供給ノ無差別均霽ヲ受ケ得ル様相互ニ協力スヘキコトヲ約ス

六 太平洋地域ニ於ケル政治的安定ニ關スル兩國ノ方針

兩國政府ハ本了解ノ基調ヲ爲ス支配的方針ハ太平洋地域ニ於ケル平和ナル平和ナルコト、協力的努力ニ依リ太平洋地域ニ於ケル平和ノ維持及保全ニ貢獻スルハ兩國政府ノ根本目的ナルコト並ニ兩國ノ何レモ前記地域ニ於テ領土の企圖ヲ有セサルコトヲ聲明ス

七 比律賓群島ノ中立化

日本國政府ハ合衆國政府ヲ希望スル時期ニ於テ合衆國政府ト比律賓ノ獨立カ完成セラルヘキ際ニ於ケル比律賓群島ノ中立化ノタメノ條約締結ヲ目的トスル交渉ニ入ル用意アリコトヲ聲明ス

INT 265

278

487

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

外機密

1383

(232) 12

極秘
電信寫

398

see page 182

1383

398A

「オーラル・ステートメント」
一九四一年六月二十一日

國務長官ハ日米兩國間ニ一層良好ナル了解ヲ招來シ且太平洋地域ニ於テ平和ヲ樹立スルタメ日本大使及其ノ同僚ニ依リ爲サレタル眞摯ナル努力ヲ多トス、同長官ハ又屢次ノ會談ヲ通シ之等ノ人々ノ態度ヲ特徴ツケタル率直サヲ多トス

本政府ハ日米兩國間ニ一層良好ナル關係及太平洋地域ニ於ケル平和状態ノ招來ヲ念願スルコトニ於テ日本大使ニ劣ラズ且國務長官ハ右精神ニ於テ日本側提案ノ有ラユル觀點ニ付慎重ナル研究ヲ爲セリ

國務長官ハ多數日本ノ指導者カ上述セルカ如キ日本大使及其ノ同僚ノ見解ト所見ヲ同シクセラレ且之等崇高ナル目的達成ノタメノ行動ヲ支持セラルルナランコトヲ疑フ理由ヲ有セズ、不幸ニシテ政府ノ有力ナル地位ニ在ル日本ノ指導者中ニハ國家社會主義ノ獨逸及其ノ征服政策ノ支持ヲ要望スル進路ニ對シ拔差シナラサル言質ヲ與ヘ居ルモノアルコト及之等ノ人カ是認スヘキ米國トノ了解ノ唯一ノ種類ハ米國カ自衛ニ關スル現在ノ政策ヲ實行スルコトニ依リ歐洲ノ戰術行爲ニ捲込マルルカ如キ場合ニハ日本カ「ヒトラ」ノ側ニ於テ戰フコトヲ豫見スルモノナルヘントノ確證カ長年ニ亘リ日本ニ對シ眞摯ナル好意ヲ表シ來レル筋ヨリノ報告ヲ含ム世界中有ラユル筋ヨリ益々本政府ニ違シツツアリ

INT 265

292

INT 265

291

488

外機密

1383

電信寫

399

1383

399 A

日本政府ノ「スポークスマン」ニ依リ無暗ニ爲サレタル三國同盟ノ下ニ於ケル日本ノ誓約及意圖ヲ強調セル最近數次ノ公式聲明ノ趣旨ハ、看過シ得サル或ル態度ヲ例證シ居レリ、斯カル指導者カ公ノ地位ニ於テ斯カル態度ヲ維持シ且公然ト日本ノ輿論ヲ上述ノ方向ニ動かサント努ムル限リ現在考究中ノ如キ提案ノ採擇カ希望セラルル方向ニ沿ヒ實質的結果ヲ收ムルタメノ基礎ヲ提供スヘシト期待スルハ幻滅ヲ感セシムルコトトナルニ非ズヤ

日本側ニ於テ中疑惑ノ他ノ原因ハ支那政府ニ提示セラルヘキ日本政府ノ和平解決ノ條件中ニ共產運動ニ抗スルタメノ支那トノ協力措置トシテ内蒙及北支ノ一定地域ニ於テ日本軍隊ノ駐屯ヲ認ムヘキ規定ヲ挿入セシメントスル日本政府ノ要望ニ關スルモノナリ

本政府ハ日本政府ヲシテ斯カル提案ヲ爲スニ至ラシメタル考量ニ關シ慎重ナル考究ヲ拂ヒタルト共ニ斯カル提案ノ是非ノ審議ニ入ルコトヲ欲セサルモ、日本大使及其ノ同僚ニ對シ幾多ノ場合ニ於テ説明セルカ如ク米國カ堅持スル自由主義的政策ハ、米國政府ヲシテ之ノ政策ト矛盾スルカ如ク思ハルル如何ナル進路ニモ向調スルコトヲ容認セサルモノト思惟ス、更ニ又單ニ富國ノミニ影響アル事柄ニ關シテハ權利賦與ノ決定上若干ノ裁量ノ餘地アリト雖モ、茲ニ審議中ノ事項ハ第三國ノ主權ニ影響スルモノナルヲ以テ本政府ハ斯カル事項ヲ處理スルニ當リテハ最モ慎重タラサルヲ得スト感セラル

故ニ國務長官ハ本政府ハ日本政府カ全讀トシテ了解案ノ目的ヲ達

IMT 265

294

IMT 265

293

489

外機密

1383

電信寫

400

成ヌルカ如キ平和的進路ノ追及ヲ希望スルモノナルコトニ關シ現
 在迄ニ與ヘラレタルヨリモ一層明白ナル何等カノ指示ヲ期待セサ
 ルヲ得ストノ結論ニ遺憾乍ラ到達セリ、本政府ハ日本政府カ所カ
 ル態度ヲ表明セラレンコトヲ眞ニ希望スルモノナリ

註：米國ノ態度ノ關スル限リ、現會談ヲ最新ノ事態ニ合致セシメ
 ムカ爲五月三十一日日本大使ニ手交セラレタル「非公式試
 案」ニシテ拘束力ナシト記載セル文書ノ六月二十一日附添
 正案ヲ別ニ日本大使ニ手交スルコトトセリ

INT 265

295

490

REEL No. A-0287

外機密

秘

1383

拾五
部内第拾五

電稿寫

401

1383

401 A

變ニ御手許ニ配布セル六月二十一日附修正案提示ト同時ニ米側
 ハ(1)第二章「歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度」ニ關聯シ別紙甲
 號ノ如キ自衛權ニ關スル公文ヲ交換スルコト及(2)第三章「日支間
 ノ和平解決ニ對スル措置」中日支間ノ經濟協力ニ關聯シ日本以外
 ノ第三國ニ對シテモ無差別待遇ヲ爲スコトニ關シ別紙乙號ノ如キ
 質問ヲ我方ニ提示シ我方ヨリ審判ヲ以テ之ニ回答スルコトト致度
 旨申出タリ右ニ對シ在米大使ハ右ハ何レモ我方ノ見解ト餘リニ懸
 隔アリトテ本國政府ヘ之カ取次ヲ拒否セル經緯アリ然レ共右文書
 ハ米側ノ考ヘ方ヲ了解スル上ニ役立つモノト認メラレタルヲ以テ
 強ヒテ在米大使ヲシテ電報セシメ茲ニ邦譯セル次第ナリ
 (別紙甲號)

國務長官ヨリ日本國大使宛

本日日米兩國政府ニ代リテ妥結シタル共同宣言第二章ニ於テ歐洲
 戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度ニ關シ「ステートメント」ヲ爲シタ
 リ本共同宣言ノ締結ニ導キタル非公式會談中本長官ハ貴大使ニ對
 シ幾多ノ機會ニ於テ歐洲ニ於ケル戰鬪行爲ニ對スル合衆國政府ノ
 態度及方針ヲ説明シ且右態度及方針ハ奪フヘカラサル自衛ナル權
 利ニ基ケルモノナルコトヲ指摘シタリ、本長官ハ本問題ニ關スル
 本政府ノ立場ヲ充分ニ陳述シ居ル四月二十四日ノ演說ニ對シ特別
 ノ注意ヲ喚起シタリ
 本長官ハ貴大使カ歐洲戰爭ニ對スル本政府ノ態度ヲ充分了知セラ
 レ居ルコトヲ確信スルモノナリ然レ共何等誤解ナカラシメンカ爲

490-1

IMT 265 147

IMT 265 146

外機密

1383

1383

電信寫

402

1383

402 A

本長官ハ再々同問題ニ言及スル次第ナリ。本長官ハ既ニ上記ノ如ク陳述セル自國ノ安全ノ防衛ノ爲合衆國カ採擇スルヲ餘儀ナクセラルルカ如キ措置ニ關シ、日本國政府ハ太平洋地域ニ於ケル平和ヲ樹立シ且保全スヘントノ本協定ノ根本目的ニ違背シ又ハ之ヲ破壞スルカ如キ何等カノ措置ヲ採ルコトヲ要スヘキ何等ノ約束ヲモ爲シ居ラサル旨ノ日本國政府ノ確認カ貴大使ヨリ得ラルレハ欣快トスル所ナリ。

日本國大使ヨリ國務長官宛

本大使ハ六月

附貴長官ノ電翰拜受セリ

本大使ハ本國政府ノ吾々ノ最近ノ會談中貴長官ニ依リ説明セラレ

又貴長官ノ四月二十四日ノ演說中ニ陳述セラレタルカ如キ歐洲ニ於ケル戰鬪行爲ニ對スル合衆國政府ノ態度ヲ充分承知シ居ル旨表明致度シ、本大使ハ合衆國政府ノ方針ニ付本大使ニ説明セラレタル通り之ヲ本國政府ニ報告スルコトヲ怠ラサリキ。又本大使ハ本國政府ハ歐洲戰爭ニ關スル合衆國政府ノ態度及立場ヲ了解シ且之ヲ正當ニ評價シ居ル旨貴長官ニ確言致度シ

本大使ハ又合衆國政府カ自國ノ安全ヲ防衛スル爲ニ採擇スルヲ餘儀ナクセラルルカ如キ措置ニ關シ、日本國政府ニ於テ本協定ノ根本目的ニ違背シ又ハ之ヲ破壞スルカ如キ何等カノ措置ヲ採ルコトヲ要スヘキ何等ノ約束ヲモ爲シ居ラサル旨貴長官ニ確言致度シ

日本國政府ハ本協定ノ締結ニ依リ自由ニ受諾シタル責任ヲ充分ニ

IMT 265

148

IMT 265

149

491

電信寫

403

外機密

383

認識シ太平洋地域ニ於ケル平和ノ樹立及保全ニ害アル何等ノ措置
ヲモ探ラサル決意ヲ有ス

IMT 266

150

492

REEL No. A-0287

外機密

1383

1383

電信寫

404

1383

404A

(別紙乙號)

(一) 日本國及支那國間ノ「經濟的協力」ナル字句ハ合衆國及他ノ第三國ノ政府及國民ニ比較シテ日本國政府及日本國民ニ有利ナル差別待遇ヲ爲スヘキ何等優先的若ハ獨占的權利ヲ支那國政府カ日本國政府又ハ其ノ國民ニ對シ賦與スルコトヲ豫定シ居ルモノナリヤ。日支間ノ和平解決ノ爲ノ交渉開始ト同時ニ北支開發會社及中支振興會社並ニ其ノ支社(複數)ノ如キ日本ノ特殊會社カ日本國政府ノ支持ノ關係シ居ル限リ、日本ノ軍事占領下ニ在ル支那ノ地域内ニ於ケル現存ノ環境ノ故ヲ以テ之等ノ會社カ實際上行使シ若ハ之等ニ自ラ歸屬スヘキ如何ナル獨占的若ハ其他ノ優先的權利ヲモ喪失スヘシト豫定セラレ居ルヤ

(二) 日本ノ軍事占領下ニ在ル支那領土内ニ於ケル第三國國民ノ貿易及旅行ノ自由ニ對スル現行ノ諸制限ニ關シテ凡ソ如何ナル制限カ專斷政府カ日本國政府ト交渉ヲ開始スルト同時ニ撤廢セラレ又如何ナル制限カ後日撤廢セラルルカニ付日本國政府ハ指示セラレ得ヘキヤ尤モ右各場合ニ付出來得ル限リ諸制限ノ撤廢カ效力ヲ生スヘキ大體ノ時期ヲ指示セラルヘキモノトス

(三) 支那國政府カ貿易通貨及爲替ニ關スル事項ニ付充分且完全ナル支配權ヲ行使スヘキコトハ日本國政府ノ意圖スルトコロナリヤ。支那ニ於テ流通シツアル日本國ノ軍票及日本カ後援スル支那諸政權(複數)ノ紙幣ヲ回收且抑制スルコトハ日本國政府ノ意圖スルトコロナリヤ。日本國政府ハ豫定セラルル交渉開始ノ後前記目的ノ取極カ同政府ノ意見ニ於テ如何ニ速ニ實行セラレ得ヘキカヲ指示セラレ得ルヤ

493

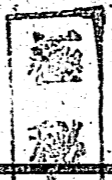
268

IMT 265

269

IMT 265

外機密



1383

電信寫

444

1383

444A

米側修正案

(六月二十七日附)

USA's amendment draft on June 27

日本側修正案

(七月十五日附)
在米大使宛訓電

Japan's amendment draft on July 15

合衆國及日本國政府ハ傳統的友好合衆國及日本國政府ハ傳統的友好關係恢復ノ爲共同宣言ニ於テ表關係恢復ノ爲共同宣言ニ於テ表現セラルルヲ如キ了解ニ關スル一モラルルヲ如キ了解ニ關スル一般的協定ノ交渉開始及締結ノ爲共的協定ノ交渉開始及締結ノ爲共同ノ責任ヲ受諾ス

前國國交ノ最近ノ疎隔ノ特定原因 前國國交ノ最近ノ疎隔ノ特定原因

ニ論及スルコトナク兩國間友好的ニ論及スルコトナク兩國間友好的感情惡化ノ原因トナレル事件ノ再感情惡化ノ原因トナレル事件ノ再發ヲ防止シ且其ノ不測不幸ナル結果ニ付矯正ヲ圖ルコトハ兩國政府果ニ付矯正ヲ圖ルコトハ兩國政府ノ衷心ヨリノ希望ナリ

共同ノ努力ニ依リ合衆國及日本國共同ノ努力ニ依リ合衆國及日本國カ太平洋ニ於ケル平和ノ樹立及保持ノタメ有效ナル貢獻ヲ爲スコト及友好的了解ヲ速ニ完成スルコトニ依リ、世界平和ヲ助長シ且現ニ文明ヲ沒滅セントスル惧アル悲シ

IMT 265

230

IMT 265

229

494

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

外機密

1383

電信寫

445

1383

445A

ムヘキ混亂ヲ假令一掃セシムルコトムヘキ混亂ヲ假令一掃セシムルコト
ト不可能ナリトスルモ之カ悪化ヲト不可能ナリトスルモ之カ悪化ヲ
抑制センコトハ兩國政府ノ眞摯ナ抑制センコトハ兩國政府ノ眞摯ナ
ル希望ナリ

斯カル果斷ナル措置ノ爲ニハ長期斯カル果斷ナル措置ノ爲ニハ長期
ノ交渉ハ不適當ニシテ又效果薄弱ノ交渉ハ不適當ニシテ又效果薄弱
ナリ。仍テ兩國政府ハ兩國政府ヲナリ。仍テ兩國政府ハ兩國政府ヲ
不取敢道義的ニ且其ノ行動ニ關シ不取敢道義的ニ且其ノ行動ニ關シ
拘束スヘキ一般的了解ヲ成立セン拘束スヘキ一般的了解ヲ成立セン
ノ之ヲ完成スル爲ニハ適當ノ手段ヲ之ヲ完成スル爲ニハ適當ノ手段
ヲ案出實施スルコトヲ希望ス

兩國政府ハ斯ル了解ニハ緊急ヲ要兩國政府ハ斯ル了解ニハ緊急ヲ要
スル重要問題ノミヲ包含セシメ後スル重要問題ノミヲ包含セシメ後
日會議ノ審議ニ議リ得ヘキ附隨の日會議ノ審議ニ議リ得ヘキ附隨的
事項ハ之ヲ含マシメサルコト然ル事項ハ之ヲ含マシメサルコト然ル
ヘシト信ス

兩國政府ハ左ノ如キ特定ノ事態及兩國政府ハ左ノ如キ特定ノ事態及
態度ヲ明瞭ニシ又ハ改善スルニ於態度ヲ明瞭ニシ又ハ改善スルニ於
テハ融和關係ノ達成ヲ期待シ得ヘテハ融和關係ノ達成ヲ期待シ得ヘ
シト認ム

合衆國及日本國ノ觀念

合衆國及日本國ノ觀念

IMT 265

232

IMT 265

231

495

外機密

1383

電信寫

446

1383

446A

三 歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度
三 歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

三 日支間ノ和平解決ニ對スル措置
三 日支間ノ和平解決ニ對スル措置

四 兩國間ノ通商
四 兩國間ノ通商

五 太平洋地域ニ於ケル兩國ノ經濟的活動
五 太平洋地域ニ於ケル兩國ノ經濟的活動

六 太平洋地域ニ於ケル政治的安定
六 太平洋地域ニ於ケル政治的安定

ニ關スル兩國政府ノ方針
ニ關スル兩國政府ノ方針

七 比律賓群島ノ中立化

因テ合衆國政府及日本國政府ハ茲

ニ左ノ相互的了解及政策ノ宣言ニ

到達セリ

到達セリ

一 國際關係及國家ノ本質ニ關スル
一 國際關係及國家ノ本質ニ關スル

合衆國及日本國ノ觀念
合衆國及日本國ノ觀念

兩國政府ハ其ノ國策ハ永續的平
兩國政府ハ其ノ國策ハ永續的平

和ノ樹立竝ニ兩國民間ノ相互信
和ノ樹立竝ニ兩國民間ノ相互信

頼及協力ノ新時代ノ創始ヲ目的
頼及協力ノ新時代ノ創始ヲ目的

トスルモノナルコトヲ確認ス
トスルモノナルコトヲ確認ス

兩國政府ハ各國家及各民族カ正

兩國政府ハ各國家及各民族カ正

INT 265

234

INT 265

233

496

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

外機密

1383

電信寫

447

1383

447A

義及衡平ニ依ル萬邦協和ノ理想
 ノ下ニ生存スル一字ヲ爲ストハ
 其ノ傳統的及現在ニ於ケル觀念
 及確信ナルコトヲ聲明ス即チ平
 和の手續ニ依リ規律セラレ且精
 神的及物質的福祉ノ追求ヲ目的
 トスル相關の利害關係ニ基キ何
 レモ等シク權利ヲ享有シ責任ヲ
 容認ス而シテ右福祉タルヤ各國
 家及民族カ他ノ爲ニ之ヲ毀損ス
 ヘカラサルカ如ク自ラノ爲ニ之

義及衡平ニ依ル萬邦協和ノ理想
 ノ下ニ生存スル一字ヲ爲ストハ
 其ノ傳統的及現在ニ於ケル觀念
 及確信ナルコトヲ聲明ス即チ平
 和の手續ニ依リ規律セラレ且精
 神的及物質的福祉ノ追求ヲ目的
 トスル相關の利害關係ニ基キ何
 レモ等シク權利ヲ享有シ責任ヲ
 容認ス而シテ右福祉タルヤ各國
 家及民族カ他ノ爲ニ之ヲ毀損ス
 ヘカラサルカ如ク自ラノ爲ニ之

ヲ擁護スヘキモノトス其ニ兩國
 政府ハ他ノ民族ノ抑壓又ハ擄取
 ヲ排撃スヘキ各自ノ責任ヲ容認
 ス
 兩國政府ハ國家ノ本質ニ關スル
 各自ノ傳統的觀念並ニ社會的秩
 序及國家生活ノ基礎的意義的原
 則ハ引續キ之ヲ保存スヘク且右
 道義的の原則及觀念ニ反スル外來
 ノ思想又ハ「イデオロギー」ニ
 依リ之ヲ變改セシメサルコトヲ
 固ク決意ス

ヲ擁護スヘキモノトス其ニ兩國
 政府ハ他ノ民族ノ抑壓又ハ擄取
 ヲ排撃スヘキ各自ノ責任ヲ容認
 ス
 兩國政府ハ國家ノ本質ニ關スル
 各自ノ傳統的觀念並ニ社會的秩
 序及國家生活ノ基礎的意義的原
 則ハ引續キ之ヲ保存スヘク且右
 道義的の原則及觀念ニ反スル外來
 ノ思想又ハ「イデオロギー」ニ
 依リ之ヲ變改セシメサルコトヲ
 固ク決意ス

IMT 265

236

IMT 265

235

497

外機密

1383

電信寫

448

1383

448A

ニ歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度
ニ歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

日本國政府ハ三國條約ノ目的カ
過去ニ於テモ又現在ニ於テモ防
禦的ニシテ挑發ニ依ラサル歐洲

日本國及合衆國政府ハ世界平和
ノ招來ヲ共同ノ目標トシ相協力
シテ歐洲戰爭ノ擴大ヲ防止スル
ノミナラス適當ナル時期至ル時
ハ其ノ速カナル平和克復ニ努力
ス
日本國政府ハ三國條約ノ目的カ
過去ニ於テモ又現在ニ於テモ防
禦的ニシテ現ニ歐洲戰爭ニ參入

戰爭ノ擴大防止ニ寄與セントス
ルモノナルコトヲ闡明ス

合衆國政府ハ其ノ歐洲戰爭ニ對
スル態度ハ現在及今後モ防護ト
自衛即チ自國ノ安全ト之カ防護

シ居ラサル國家ノ戰爭參加ヲ防
止シ以テ歐洲戰爭ノ擴大防止ニ
寄與セントスルニアルモ若シ不
幸ニシテ歐洲戰爭カ擴大セラル
ル場合ニ於テハ日本國政府ハ條
約上ノ義務ヲ遂行シ且自國ノ福
祉ト安全ヲ防護スル考慮ニ依リ
テノミ其ノ態度ヲ決ニヘシ
合衆國政府ハ其ノ歐洲戰爭ニ對
スル態度ハ現在及將來ニ於テ
方ノ國ヲ援助シテ他方ヲ攻撃セ

IMT 265

238

IMT 265

237

498

外機密

1383

電信寫

449

1383

449A

ノ考慮ニ依リテノミ決セラルヘ
 キモノナルコトヲ闡明ス
 註、(一九四一年五月三十一日
 案ノ一部ヲ成セル本問題
 ニ關スル合衆國政府ノ附
 屬追加誓ノ代リトシテ茲
 ニ交換公文ノ試案添付セ
 ラル)

ントスルカ如キ攻撃的施策ニ出
 テサルヘキコトヲ闡明ス合衆國
 政府ハ戦争ヲ嫌惡スルコトニ於
 テ半固タルモノアリ依テ其ノ歐
 洲戦争ニ對スル態度ハ現在及將
 來ニ亘リ専ラ自國ノ福祉ト安全
 トヲ防衛スルノ考慮ニ依リテノ
 ミ決セラルヘキモノナルコトヲ
 闡明ス

三、日支間ノ和平解決ニ對スル措置
 三、日支間ノ和平解決ニ對スル措置

日本國政府ハ合衆國政府ニ對シ
 日本國政府力支那國政府トノ和
 平解決交渉ヲ提議スヘキ場合ニ
 於ケル基礎的一般條件即チ日本
 國政府ノ聲明スルトコロニ依レ
 善隣友好、主權及領土ノ相互
 尊重ニ關スル近衛原則竝ニ右原
 則ノ實際的適用ニ矛盾セサルモ
 ノナル條件ヲ通報シタルヲ以テ

日本國政府ハ合衆國政府ニ對シ
 支那事變解決ニ關スル基礎的一
 般條件カ近衛聲明ニ示サレタル
 原則及右原則ニ基キ既ニ實施セ
 ラレタル取扱及事項ト矛盾セサ
 ルモノナルコトヲ宣明シ合衆國
 大統領ハ蔣政權ニ對シ戰鬪行爲
 ノ終結及平和關係ノ恢復ノタメ
 日本國政府ト交渉ニ入ル様態

IMT 265

240

IMT 265

239

499

45.0A

1383

電信寫

450

1383

外機密

合衆國大統領ハ支那國政府及日本國政府カ相互ニ有利ニシテ且受諾シ得ヘキ基礎ニ於テ戰闘行為ノ終結及平和關係ノ恢復ノタメ交渉ニ入ル様支那國政府ニ德意スヘシ

註、(第三項ノ前記案文ハ共產運動ニ對スル共同防衛問題(支那領土ニ於ケル日本軍隊ノ駐屯問題ヲ含ム)及日支間ノ經濟的協力ノ問題ニ關スル今後ノ討議

ニ依リ變更セララルコトアルヘシ、第三項ノ案文修正ノ提議ニ關シテハ如何ナル修正提案モ本項ニ關シ附屬書ニ掲ケラレタル一切ノ點カ満足ニ起草セラレ本項及附屬書カ全體トシテ検討シ得ルニ至リタル上ニテ考究スルカ最モ好都合ナリト信ス)

IMT 265

242

IMT 265

241

500

外機密

1383

電信寫

451

1383

451A

西兩國間ノ通商

本了解カ兩國政府ニ依リ公式ニ承認セラレタルトキハ合衆國及日本國ハ兩國ノ一方カ供給シ得テ他方カ必要トスルカ如キ物資ヲ相互ニ供給スヘキコトヲ保障スヘシ兩國政府ハ更ニ管テ日米通商航海條約ニ基キ確立セラレ居タルカ如キ正常ノ通商關係ヲ恢復セシムルニ必要ナル措置ヲ講スルコトニ同意ス、若シ新造

西兩國間ノ通商

本了解カ兩國政府ニ依リ公式ニ承認セラレタルトキハ合衆國及日本國ハ兩國ノ一方カ供給シ得テ他方カ必要トスルカ如キ物資ヲ相互ニ供給スヘキコトヲ保障スヘシ兩國政府ハ更ニ管テ日米通商航海條約ニ基キ確立セラレ居タルカ如キ正常ノ通商關係ヲ恢復セシムルニ必要ナル措置ヲ講スルコトニ同意ス、若シ新造

的活動

商條約カ兩國政府ニ依リ希望セラルルトキハ右ハ出來得ル限リ速力ニ交渉セラルヘク且通常ノ手續ニ從ヒ締結セラルヘシ
西太平洋地域ニ於ケル兩國ノ經濟的活動
太平洋方面ニ於ケル日本國及米國ノ活動ハ平和的手段ニ依リ且國際通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ遵ヒ行ハルヘシトノ意ニ爲サレタル相互的義務ニ從

經濟的活動

商條約カ兩國政府ニ依リ希望セラルルトキハ右ハ出來得ル限リ速力ニ交渉セラルヘク且通常ノ手續ニ從ヒ締結セラルヘシ
西太平洋地域ニ於ケル兩國ノ經濟的活動
西太平洋方面ニ於ケル日本國及米國ノ活動ハ平和的手段ニ依リ且國際通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ遵ヒ行ハルヘシトノ意ニ爲サレタル相互的義務ニ從

IMT 265

244

IMT 265

243

501

外機密

1383

電信寫

452

1383

452 A

日本國政府及合衆國政府ハ前
 述カ夫々自國經濟ノ保全及發達
 ノタメ必異トスル天然資源（例
 ハ石油、鐵礦、錫、「ニッケ
 ル」）ノ商業的供給ノ無差別的
 均霑ヲ受ケ得ル様相互ニ協力ス
 ヘキコトヲ約ス

太平洋地域ニ於ケル政治的安定ハ太平洋地域ニ於ケル政治的安定

ニ關スル兩國ノ方針

ニ關スル兩國ノ方針

兩國政府ハ本了解ノ基調ヲ爲ス
 支那の方針ハ太平洋地域ニ於ケ

兩國政府ハ本了解ノ基調ヲ爲ス
 支那の方針ハ太平洋地域ニ於ケ

ル平和ナルコト、協力的努力ニ
 依リ太平洋地域ニ於ケル平和ノ
 維持及保全ニ貢獻スルハ兩國政
 府ノ根本目的ナルコト竝ニ兩國
 ノ何レモ前記地域ニ於テ領土的
 企圖ヲ有セサルコトヲ聲明ス

ル平和ナルコト、協力的努力ニ
 依リ太平洋地域ニ於ケル平和ノ
 維持及保全ニ貢獻スルハ兩國政
 府ノ根本目的ナルコト竝ニ兩國
 ノ何レモ前記地域ニ於テ領土的
 企圖ヲ有セサルコトヲ聲明ス

七 比律賓群島ノ中立化

日本國政府ハ合衆國政府ヲ希望
 スル時期ニ於テ合衆國政府ト比
 律賓ノ獨立カ完成セラルヘキ際
 ニ於ケル比律賓群島ノ中立化ノ

日本國政府ハ比島ヲシテ永
 久中立ヲ維持セシムルコト及
 同島ニ於テ日本國民ニ對シテ
 別待遇ヲ爲ササルコトヲ希望
 トシテ其ノ獨立ヲ共同ニ保障

IMT 265

246

IMT 265

245

502

外機密

1383

電信寫

453

タメノ條約締結ヲ目的トスル交
渉ニ入ル用意アルコトヲ聲明ス

ス

イ合衆國政府ハ合衆國ニ對スル
日本移民カ友好的ニ考慮セラ
レ他國民ト同等無差別ノ待遇
ヲ與ヘ得ル様努力ス

六附則

本了解事項發表ノ範圍性質及時
期ハ兩國政府ニ於テ協定スルモ
ノトス

503

IMT 265

247

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

外機密

1383

電信寫

454

1383

454A

日本國政府ノ附屬追加書

三日支問ノ和平解決ニ對スル措置

本項ノ所謂基本條件トハ左ノ如

(一) 善隣友好

(二) 有害ナル共產運動ニ對スル

共同防衛ノ支那領土内ニ於ケ

ル日本軍隊ノ駐屯ヲ含ム

今後更ニ討議決定スヘシ

(三) 經濟的協力ノ一國際通商關

係ニ於ケル無差別待遇ノ原則

ヲ本號ニ適用スルコトニ付テ

ノ交換公文ニ關スル合意ニ依

リ決定スルモノトシ

(四) 善隣國トシテ協力シツツアリ

且世界平和ニ貢獻スヘキ東亞

ノ中核ヲ形成スヘキ各國民

固有ノ特質ニ對スル相互尊重

(五) 出來得ル限り速カニ且日支間

ニ締結セラルヘキ協定ニ遵ヒ

支那領土ヨリ日本ノ武力ヲ撤

退スヘキコト

248

IMT 265

249

IMT 265

504

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

電信寫

455

1383

外機密

(六) 非併合
 (七) 無賠償
 (八) 滿洲國ニ關スル友誼的交渉

IMT 265

250

505

REEL No. A-0287

0308

アジア歴史資料センター

456A

電信寫

456

1383

外機密

合衆國政府ノ附屬追加書
四兩國間ノ通商

現下 國際的非常事態ノ繼續中
日本國及合衆國ハ相互ニ通常ノ又ハ
戰前ノ貿易ノ數量ニ達スル迄物
資ノ輸出ヲ許可スヘシ尤モ何レ
ノ國ノ場合ニ於テモ自國ノ安全
及自衛目的ノタメ必要トスル物
資ニ付テハ例外トス。右制限ハ
各政府ノ義務ヲ明瞭ナラシムル
爲之ヲ掲ケタリ。右ハ相手國政

府ニ對スル制限ヲ目的トスルモ
ノニ非ス且兩國政府ハ友好國ト
ノ關係ヲ支配シツアル精神ニ
依リ斯カル規則ヲ適用スルモノ
トス

IMT 265

252

IMT 265

251

506

REEL No. A-0287

457A

1383

電信寫

極秘

外機密

1383

112
あ

米側提案ノ兩國了解案

殿秘

(非公式試案的ニシテ拘束力ナシ)

日本國政府及米國政府ハ共同宣言ニ於テ表明セラルルカ如キ了解ニ關スル全般的協定ヲ交渉シ且之ヲ締結センカ爲茲ニ共同ノ責任ヲ受諾ス

兩國政府ハ兩國國交ノ最近ノ疎隔ノ原因ニ付テハ憐ニ之ヲ論議スルコトナク兩國民間ノ友好的感情ヲ惡化スルニ至リタル事件ノ再

發ヲ防止シ其ノ不測ノ發展ヲ制止スルコトヲ衷心ヨリ希望ス

兩國共同ノ努力ニ依リ太平洋^洋ニ平和ノ樹立及維持ノタメ效果的

貢獻ヲ爲スコト及友好的了解ヲ速ニ完成スルコトニ依リ文明ヲ覆

沒セントスル悲シムヘキ混亂ノ脅威ヲ一掃センコト若シ其ノ不可

能ナルニ於テ速ニ之ヲ擴大セシメサランコトハ兩國政府ノ切實ニ

希望スル所ナリトス

前記ノ決定的行動ノ爲ニハ長期ノ交渉ハ不適當ニシテ又優柔不斷

ナルニ鑑ミ茲ニ全般的了解ヲ成立セシムル爲兩國政府ヲ道義的ニ

拘束シ其ノ行爲ヲ規律スヘキ適當ナル手段トシテ文書ヲ作成スル

コトヲ提議スルモノナリ

INT 265

297

INT 265

296

507

外機密

1383

電信寫

458

1383

458A

右ノ如キ了解ハ之ヲ緊急ナル重要問題ニ見局シ會議ノ審議ニ譲リ得ヘキ附隨的事項ハ之ヲ含マシメサルコト適當ナリト信ス

兩國政府間ノ關係ハ左記ノ諸點ニ付事態ヲ明瞭ニシ又ハ之ヲ改善シ得ルニ於テハ著シク調整シ得ヘント認メラル

一、日米兩國ノ抱懷スル國際觀念竝ニ國家觀念

二、歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

三、日支間ノ和平解決ニ對スル措置

四、兩國間ノ通商

五、太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟的活動

六、太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國政府ノ方針

七、比律賓群島ノ中立化

前述ノ事情ヨリ米國政府及日本國政府ハ茲ニ左記ノ了解及政策ノ宣言ヲ爲スニ至リタリ

一、日米兩國ノ抱懷スル國際觀念及國家觀念

兩國政府ハ兩國ノ國策ハ恒久ノ平和ヲ確立シ兩國間ニ相互ノ尊敬ニ基ク信頼ト協力ノ新時代ヲ劃サンコトヲ希望スルモノナルコトヲ確認ス

兩國政府ハ各國竝ニ各人種ハ相據リテ八紘一字ヲ爲シ等シク權利ヲ享有シ相互ノ利益ハ之ヲ平和的方法ニ依リ調節シ精神的竝ニ物質的ノ福祉ヲ追求シ之ヲ自ラ擁護スルト共ニ之ヲ破壞セサルヘク且他民族ノ抑壓又ハ搾取ヲ排擯スヘキ責任ヲ容認スルコトハ兩國政府ノ傳統的確信ナルコトヲ闡明ス

IMT 265

200

IMT 265

298

508

外機密

1383

電信寫

459

1383

459A

兩國政府ハ相互ニ兩國固有ノ傳統ニ基ク國家觀念及社會的秩序
竝ニ國家生活ノ基礎タル道義的原則ヲ保持スヘク之ニ反スル外
來思想ノ跳梁ヲ許容セサルノ鞏固ナル決意ヲ有ス

ニ歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

日本國政府ハ三國同盟ノ目的カ防禦的ニシテ現ニ歐洲戰爭ニ參
入シ居ラサル國家ノ戰爭參加ヲ防止スルニ在ルモノナルコトヲ
闡明ス尤モ同條約ノ規定ハ自衛手段ニ依ル參戰ニハ適用ナキコ
ト明カナリ

米國政府ハ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ハ現在及將來ニ亘リ專ラ
防護ト自衛即チ自國ノ安全ト之カ防禦ノ考慮ニ依リテノミ決セ
ラルヘキモノナルコトヲ闡明ス

三、日支間ノ和平解決ニ對スル措置

日本國政府ハ米國政府ニ對シ日本政府カ支那政府トノ和平解決
交渉ヲ提案スル場合ノ骨組的一般條件ヲ通報セル處右條件ハ日
本政府ノ聲明スルトコロニ依レハ善隣友好、主權及領土ノ相互
尊重ニ關スル近衛原則竝ニ右原則ノ實際的適用ニ矛盾セサルヘ
キモノナルヲ以テ米國大統領ハ支那政府及日本政府カ相互ニ有
益ニシテ且受諾シ得ヘキ基礎ニ於テ事變ノ終結及平和關係ノ恢
復ノタメノ交渉ニ入ル様支那政府ニ提言スハシ

註(前記第三項ノ案文ハ共產主義的活動ニ對スル共同防衛問題

(支那ニ於ケル日本軍隊ノ駐屯問題ヲ含ム)ニ關スル今後ノ
審議ニ依リ變更セラルルコトアルヘシ)

INT 265

301

INT 265

300

509

REEL No. A-0287

外機密

1383

電信寫

460

1383

460A

四 兩國間ノ通商

今次ノ了解成立シ兩國政府之ヲ承認シタルトキハ日米兩國ハ各其ノ必要トスル物資ヲ相手國カ有スル場合相手國ヨリ之カ確保ヲ保證セラルルモノトス又兩國政府ハ更ニ管テ日米通商條約有効期間中存在シタルカ如キ正常ノ通商關係ヘノ復歸ノ爲適當ナル方法ヲ講スルモノトス尙兩國政府ハ新通商條約ノ締結ヲ欲スルトキハ出來得ル限り速カニ之ヲ考究シ通常ノ慣例ニ從ヒ之ヲ締結スルモノトス

五 太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟活動

太平洋方面ニ於ケル日本國及米國ノ活動力平和的手段ニ依リ且國際通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ從テ遂行セラルヘキ

旨茲ニ成立セル相互の誓約ノ基礎ニ於テ日本國及米國政府ハ兩國カ夫々自國經濟ノ保全及發達ノタメ必要トスル天然資源（例ヘ石油、護謨、錫、「ニツケル」）ノ商業的供給ヲ日米兩國カ無差別的ニ均霑シ得ル様相互ニ協力スヘキコトヲ約ス

六 太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國ノ方針

日本國政府及米國政府ハ本了解ノ基調ヲ爲ス指導の方針ハ太平洋ニ於ケル平和ナルコト。相互協力ノ努力ニ依リ太平洋ニ於ケル平和ノ維持ニ寄與スルハ兩國政府ノ根本目的ナルコト及日米何レモ前記方面ニ於テ領土の野心ヲ有セサルコトヲ聲明ス

七 比律賓群島ノ中立化

日本國政府ハ米國政府カ希望スル時期ニ於テ將來比律賓ノ獨立

INT 265

303

INT 265

302

510

電信寫

461

1383

外機密

カ完成セル曉ニ於ケル比島ノ中立化ノタメノ條約締結ヲ目的ト
スル米國政府トノ交渉ニ入ル用意アルコトヲ聲明ス

1MT 265

304

511

REEL No. A-0287

外機密

1383

極秘

463

電信寫

1383

463A

米國政府ノ附屬追加書

ニ歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

「ヒトラー」氏ニ依リ創始セラレタル軍事の征服ノ運動ニ對スル米國政府ノ立場ハ一九四一年四月二十四日ノ國務長官ノ公開演説ニ於テ表明セラレ居レリ、直接要點ニ觸レ且全面的情勢ニ關シ根幹ヲナスヘキ拔萃左ノ通

前述スル所ニヨリ右ニ關スル米國政府ノ態度ハ「ヒトラー」ノ行動前ニ言辭ニヨリテ疑ノ餘地ナク明瞭ニセラレタルカ如キ如何ナル國家モ如何ナル地域モ除外セラルルコトナク武力的世界征服ヲ目的トスル運動ニ對抗シ自衛措置ヲ講スヘシト決意シ居ルコト明カナルヘシ、右態度ハ極メテ根本的ナル考慮即チ寧

コトヲ得サル自衛ナル權利ノ考慮ニ基ケルモノナリ

米國政府カ執リ得ル右以外ノ唯一ノ態度ハ歐洲ニ在ル十五ヶ國餘カ執リタル自殺的態度ナルヘシ、之等諸國ハ現ニ米國カ通告ヲ受ケツツアルト同様迫害セラレサルヘキ旨及國境ヲ超エテ抵抗スルカ如キ場合ニ於テハ侵略者ナリトシテ且攻勢ヲトリタリトシテ非難セラルヘキ旨ノ通告ヲ受ケタルモノナリ
世界征服ノ「ヒトラー」運動ニ對抗スル有效ナル防衛ノ立場ヨリスレハ米國民カ同様ノ經路ヲ辿ルコトハ自國ノ安全ニ對スル合理的警戒ノ見地ヨリシテ愚劣無益且自殺的ナルヘシ
現在ノ狀勢ニ鑑ミ「ヒトラー」コソハ米國及同様ノ立場ニ在ル他ノ諸國ニ依ル有效ナル自衛ノ努力ノ必要ヲ即時不要ナラシメ

0 195

0 194

512

外機密

1383

電信寫

464

1383

464A

得ル唯一ノ人物ナリ、蓋シ他ノ國カ同様米國ニ對シ斯種抵抗ヲ
 拋棄スヘキ旨ノ要請ヲナストキハ其ノ實際的結果ニ於テ斯ル要
 求ヲ爲ス國家ハ「ヒトラー」及彼ノ武力的侵略運動ノ側ニ配置
 セラルルコトトナルヘキヲ以テナリ、從テ「ヒトラー」カ法
 權利若ハ人道ノ片影タニナク其ノ完全ナル屈服ヲ招來スルノ目
 的ヲ以テ現ニ攻撃シツツアル諸國ヨリハ寧ロ「ヒトラー」コソ
 ハ平和支持ノタメ呼掛ケラルヘキ人物ナリ
 「然リ勝利カ何レノ側ニ歸スルヤニ依リ差異ヲ生ス即チ米國カ
 壁ヲ背ニシテ他ノ四大陸カ我々ニ背キ公海ノ自由ハ喪ハレテ地
 球上ニ於ケル最後ノ自由ノ地域ヲ獨力ニテ防衛スルカ或ハ米國
 カ秩序アル世界ニ其ノ地位ヲ保持シ得ルヤノ差異ナリ」

四兩國間ノ通商

現下ノ國際的非常時期間中日本及米國ハ相互ニ通常ノ即チ戰前
 ノ貿易ノ數量ニ違スル迄物資ノ輸出ヲ許可スヘシ尤モ何レノ國
 ノ場合ニ於テモ自國ノ安全及自衛ノ目的ノタメ必要トスル物資
 ニ付テハ例外トス

0 197

0 196

513

462 A

1383

電信寫

462

極秘

1383

外機密

日本政府ノ附屬追加書

三、日支間ノ和平解決ニ關スル措置

本項ニ所謂基本條件トハ左ノ如シ

(一) 善隣友好

(二) (有害ナル共產運動ニ對スル共同防衛) 支那領土内ニ於ケル

日本軍隊ノ駐屯ヲ含ム

今後ノ討議ニヨリ決定セラルヘシ

(三) 經濟的協力一之ニ依リ日本及支那ハ國際通商關係ニ於ケル無

差別待遇ノ基礎ニ於テ進ムヘシ

(四) 主權及領土ノ相互尊重

(五) 善隣國トシテ協力シ且世界平和ニ貢獻スヘキ極東ノ中核ヲ成

スヘキ相手國民ノ本質的特徵ノ相互尊重

(六) 出來得ル限り速カニ且日支兩國間ニ締結セラルヘキ協定ニ從

テ支那領土及支那領海ヨリ日本陸軍及海軍兵力ヲ撤去スヘキ

コト

(七) 非併合

(八) 非賠償

(九) 滿洲國ニ關スル友誼的協議

0 199

0 198

514

外機密

1383

(嚴秘、非公式、試案的且拘束力ナシ)
日本案ニ對スル口頭説明乃至修正意見

前文

意義ヲ明瞭ナラシムル爲用語中二、三ノ輕微ナル修正ヲ施セリ
日本案ノ第二頁ニ列舉セル各項ノ「リスト」中第三項ノ^{見出}ハ内
容ニヨリ正確ニ適應スル様變更セリ、第五項中「南西」ナル語ヲ
削除セリ、第六項ニテ規定スル新規内容ニ^{見出}ミ(下記ノ説明参照)
日本案ノ第六ノ内容ノ一部ハ獨立ノ一項目トシテ規定セルヲ以テ
之カ^{見出}ヲ「リスト」ニ載セタリ又日本案第六項ノ内容ノ一部ハ
削除セリ(下記ノ説明参照)

電信寫

465

1383

465A

一、日米兩國ノ抱懷スル國際觀念及國家觀念第一節ハ自明ナル事實
ノ表明ナルヲ以テ削除セリ
日本案第三節ニ於テ「後進」ナル語ハ人種及民族ノ平等ノ原則
ニ矛盾ナカラシムル爲「他ノ」ナル語ニ變ヘタリ

0 201

0 200

515

外機密

1383

電信寫

466

1383

466A

三、歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

日本樂ノ第一節ノ現在ハ米國政府カ歐洲ニ於ケル平和招來ノタ
メ努力スルニ適當ノ時機ニ非ストノ趣旨ノ大統領屢次ノ聲明
何等矛盾スルカ如キ印象ヲ遺ケルカ爲日本樂ノ第一節ハ之ヲ削
除セリ

日本樂ノ第二節ノ米尾ニ自衛權ノ觀點ヲ強調スルタメ一文ヲ追
加セリ

三國同盟ノ「テキスト」ハ既ニ公表セラレ居リ而條約ノ何レカ
ノ條項ヲ特ニ援用スルモ何等意味ナキ如ク思ハルルヲ以テ第三
節ハ之ヲ削除セリ

日本樂ノ第四節ハ米國ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ノ防衛的且自衛

的性質ヲ強調スル爲之ヲ修正セリ

米國政府ノ附屬追加書ニ於ケル聲明中ニ「ヒトラー」總統ニ
依リ創始セラレタル軍事的征服運動ニ對スル米國政府ノ見解ノ
詳論ヲ包含シ居レリ

0 203

0 202

516

外機密

1383

電信寫

467

1383

467A

三日支間ノ和平解決ニ對スル措置
既ニ述ヘタル如ク見出ハ内容ヲ更ニ正確ニ表現スルタメ之ヲ變
更セリ

日本案ニ於ケル陳述ハ基調ヲ爲ストコロノ意義ヲ變ヘルコトナ
ク又同時ニ根本問題ニトリ本質的ナラサル問題ニシテ且議論ノ
餘地アル性質ヲ有シ米國ノ見地ヨリスレハ重大ナル困難ヲ提起
スル惧アル問題ノ惹起ヲ避クルタメ替替ヘタリ

本項ニ關スル日本政府ノ附屬追加書ニ於ケル陳述モ亦前節ニ述
ヘタル考慮ニ適合シテ二、三ノ細目ニ付修正ヲ加ヘタリ、加之、
經濟的協力ニ關スル第三項ハ日本及支那方其ノ經濟關係ニ於テ

國際通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ違フ意圖ナルコトヲ
明瞭ナラシムル爲メ案文ヲ修正シタリ

右原則ハ日本政府及支那政府カ長キニ亘リ認メ來タレリト解セ
ラルル原則ニシテ米國ノ通商政策ノ根底ヲ爲スモノナリ
第六項ノ「軍隊」ナル字句ハ一切ノ武装兵力ヲ包含セントスル
モノナリト推測セラルルヲ以テ案文ハ曖昧ヲ避クルタメ本項ノ
案文ニハ些少ノ修正ヲ施シタリ

既ニ述ヘタル如ク支那領土内ニ於ケル日本軍隊ノ駐屯ヲ含ム共
産運動ニ關聯セル問題ハ今後ノ討議ニ依リ決定セラルヘシ

0 205

0 204

517

外機密

1383

電信寫

468

1383

468A

四 兩國間ノ通商

現在ノ國際的非常時ノ期間中暫定的措置トシテ各國ハ自國ノ安全及自衛ノ目的ニ要スル物資ノ輸出ヲ制限シ得ヘキ旨了解セラ
ルルニトテ明瞭ナラシムヘキ陳述カ米國政府ノ附屬追加書ニ挿
入セラレタリ

五 太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟活動本項ノ案文ハ同項ノ規定ヲ
米國及日本ニ對シ平等ニ適用シ得ル様修正セラレタリ

六 太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國ノ方針

本項ハ本了解ノ根本目的ノ直截簡明ナル陳述ヨリ成ル様修正セ
ラレタリ其ノ眼自トスル所ハ此ノ最重要ナル問題ニ關シ文書自
體カ一目瞭然ニ表現スル様前記目的ヲ特ニ強調セントスルニ在リ

根本目的ノ陳述ハ更ニ一層之ニ重要性ヲ與フル爲新ニ獨立ノ一
項トセリ

日本案中比律賓群島ニ關スル陳述ハ新項目タル第七項ニ於テ規
定セリ

移民ニ關スル問題ハ國內問題ナリトスル米國ノ不動ノ立場ニ鑑

ミ日本移民ニ關スル陳述ハ削除セラレタリ

右理由ニ依リ本問題ニ關スル陳述ヲ挿入セント企圖スルコトハ
協定ノ基調ヲ爲スヘキ目的ノ妨害トナルヘシ

0 207

0 206

518

大臣 次官 七

1383

470 (分類)

| | | | | | | | | |
|-------------|-------------|-----------------|----------------|-----------------|---|------|------|-------------|
| 電 信 案 | 外 務 省 | ヨリノ電報接到前軍例ヨリ本省電 | 案乃至意見申出見上中心貴大使 | 日米了解案ニ関シ米例ヨリ何事提 | 第 | 電送第 | 號 | 主管 |
| | | | | | | 昭和 | 年月日 | 時分 |
| | | | | | | 件名 | 宛 | 主任 |
| | | | | | | | 野村大使 | 野村大使 |
| | | | | | | 記録件名 | 發 | 昭和十五年六月五日起草 |
| | | | | | | | 杉田大使 | |

電信課長 發電係

(外務省 部長 杉田 敬三)

0 209 520

電信寫 469

1383

外機密

マ比律賓群島ノ中立化

本項ノ用語ハ一九三四年三月二十四日成立セル「タイディングス、マクダフィー」法ノ字句ニ適應セシムル様變更セラレタリ

附則

米國ノ傳統的的政策及米國ニ於ケル各種ノ實際的考慮ニ從ミ米國政府カ目下問題トナレル了解ヲ其附屬書ト共ニ秘密ニ附シ置カント努力スルモ重大ナル困難發生スルニ至ルヘシ米國政府ハ恐ラク本了解ヲ二、三週間ノ期間中ハ秘密ニ附シ置ク様措置スルコトヲ得ヘク右期間内ニ米國政府ハ兩國政府カ本了解又ハ少クトモ其ノ明瞭ナル實體ノ發表ニ關スル範圍、性質及時期ニ關聯セル諸般ノ手續ヲ完了スヘキモノト信ス

0 208 519

472

1383

電
信
案

外
務
省

報ハ差控ヘシメズ、様致変為念

日本標準規格B5)

0 211

522

471

1383

電
信
案

外
務
省

ノ督促ヲ受クテ強ント事ナカ事
美電報未接到又ハ解讀ニ暇取
リ居ル直ニ如要求ニ應ジ得サカ如
キ場合ハ恰モ本局ニ於テ隠シ立テ
ヲ為シ居ルヤノ印象ヲスラヘルコト
ナリ面白カクサレ付今後ハ本局先
口對電 武官ヨリ斯カレテ報 的電

日本標準規格B5)

0 210

521

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

能た立場を二對する手高ヲ多心達ニ對シ
 一ツパルハは知一過ナリ而シテ歐洲
 大戰ニ對スルニ能ク在ニ付テハ日米ヲ解
 決ニテ三人行動ノ自由ヲ留保セシムル
 一層ハ是實問題トシテハ為高ク
 一國是戰スルニ下ナク日米ヲ解
 決ニテ上ハ外交的點ヲ依リ
 其ノ戰能ハ高ク高制ニ得ル人者
 地ニテ独ニ戰能ハ後ハ特ニ日本

INT 265

162

524

有テテ九日即チ反谷折田ノ
 友見の者
 一電ハ四三日ノ(一)ニシテ(二)ノ
 一電ニ
 一電ニシテ指示ヲ結望ニ居ル其後
 能ク戰能ハ物々心痛ノ程ヲ
 察ニシテ一見者一電ニ申ス
 米國ハ二正面作戦ヲ望ムスニテ大平
 一平和ヲ望ムル勿論ニ然レ共ニ不可

INT 265

161

523

知得也、此の方針ニ変化を
 示す、今、三國同盟ニ
 三國同盟ト太平洋
 主義ト信ス、
 敵上ノ如ク、日米ノ
 局上ノ有利ト云フ、
 懸念ニ付、何カ
 中ニ付、
 高田、
 三
 三
 三

道ハ自由ニ経済的
 南方進出トシ、
 突ク、
 事、
 英領各地ト交通
 組ク、
 思ハ
 三國同盟ヲ
 毛日米、
 三
 三
 三

480

1383

七月廿四日、近衛首相印記者、多見記ハ、
 細務多ク、又、等、湯敷セシ、カ、即、部長、友、也、
 二、電、決、手、在、内、若、ク、特、地、務、長、中、ノ、因、野、長、友、也、
 三、通、知、シ、ル、延、同、長、友、也、一、ト、守、心、ノ、操、探、ナ、リ、ト、
 二、ト、高、昨、日、大、使、領、ハ、我、同、記、者、團、ト、
 合、見、ニ、於、テ、米、田、ハ、氣、難、ス、ル、ヲ、ク、テ、
 公、希、望、極、メ、リ、ト、一、意、ニ、明、カ、ニ、シ、ル、カ、右、大、
 使、領、郵、幣、長、友、相、法、上、近、衛、公、侯、
 二、呼、應、シ、テ、日、米、ノ、解、ト、把、軸、同、照、上、同、

(乙 號)

0 212

530

477

1383

日本財源ノ希望スル所ト、若、地、
 際、不、取、扱、是、方、ニ、明、カ、ニ、致、シ、置、テ、
 持、對、立、シ、余、リ、遷、延、ハ、得、第、之、非、ス、
 卜、好、シ、者、他、ノ、重、大、ヲ、轉、生、シ、
 重、大、ヲ、電、報、奉、答、ス、(了)

外務省

IMT 265

167

529



極秘

1383

480

七月言踪村大使松田大佐宛電報内容
 二十九日、近衛首相印記者会見記の如き事
 一、細野多々子等、湯敷セラシタカ印記者会見
 二、電報云、松田大使、特電中、国務省長官
 三、通知云、松田大使、特電中、国務省長官
 四、ト、高田日大使、特電中、国務省長官
 五、會見云、松田大使、特電中、国務省長官
 六、希望云、松田大使、特電中、国務省長官
 七、近衛首相、長官相談、上野衛公談
 八、呼應云、日米了解、上野衛公談

0 212

530

1383

日本政府の希望する所は各地
 際不致致方不明の事
 持別云々余り遷延の事
 卜好の事此の重大な事
 重なる事電報云々

INT 265

167

529

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

外機密

極秘

1383

482

在米大使宛電報寫(七月四日附)
 昔電ニ因リ
 五月三十一日米案ハ一應電報アリタルニモ拘ハラ
 ス直々ニ之ヲ討議ノ基礎トセサル様引續キ
 電稟アリ其後可成リノ日數ヲ経接到セ
 冒頭電ハ取次ヲ御躊躇セラレタル程ノ
 右三十一日案ニ比較的輕微ナル修正ヲ加ヘタ
 ルモノニテ率直ニ申シ或ハ修正案ト相距
 ルト相当地リ公正ナル基礎ノ下ニ成レルヨリ米
 國交調整ノ根本義ヲ從未共我政府

(乙號)

0 214

.532

481

1383

係ニ因リ日本側ノ互成處ヲ緩和セン
 トノ意圖ニ出テ然ルモノナリ
 右ノ旨ヲ送(了)

(乙號)

0.213

.531

1383

483

| | |
|---|--|
| <p> 以ニ異論ナキハ勿論ニ此ノ點米側ニ確言セ ラレ差支ナキモ現在ノ形式ニ於ケル米側提 案ニ付テハ事頗ル重ナルニ鑑ミ目下 慎重ノ上ニモ慎重ヲ期シ熟議ヲ 重ニ居ル次第ナリ </p> | |
|---|--|

2 號

0 215

533

REEL No. A-0287

illusory the cherished hope of the American Government, which it understood was shared by the Japanese Government, that peace in the Pacific area, far from being further upset, might now indeed be strengthened and made more secure.

It is the earnest hope of the Government of the United States that the reports of Japan's decision to enter upon hostilities against the Soviet Union are not based upon fact, and an assurance to that effect from His Excellency the Prime Minister of Japan would be deeply appreciated by the Government of the United States.

Tokyo, July 6, 1941.

887-487

537

條約局長



①
谷 集

Reply sent by H.I.M.'s Foreign Minister at the request of the Prime Minister for delivery to the President of the U.S.A., dated July 7th, Showa 16.

折返し印書見所回示ヲ乳フ

七月七日回示

538


- 2 -

of this Oral statement for the President's perusal in order to bring home the course of policy Japan has been compelled to pursue in connection with the Soviet-Axis war. Of course, it is with the understanding that the American Government will treat it as strictly confidential.

Incidentally, the Japanese Government would like to avail themselves of this opportunity for definitely ascertaining whether the President really intends to intervene in the European war as they are naturally and very deeply concerned at the prospect, disturbed as they sincerely are, by reports reaching them from a variety of sources. Furthermore, the

extent of British and American aids to, and developments of their relations with, the Soviet Union in connection with the Soviet-Axis war is bound to influence Japan's attitude whether to adhere to or alter the course she is actually pursuing at present. It should require no mention that the extent of British and American assistances to the Chungking régime will also have a similar effect upon Japan's policy.

Lastly, the fact should not for a moment be doubted that Japan will remain fully loyal to the aims and spirit of the Tripartite Pact.



Message sent by the Secretary of State at the specific request of the President for delivery to His Excellency the Prime Minister of Japan, dated July 4, 1941.

From a variety of sources reports are reaching the Government of the United States that it is the intention of the Japanese Government to enter upon hostilities against the Soviet Union.

As is well known to the Japanese Government, the maintenance and preservation of peace in the area of the Pacific has been the earnest desire of the American Government, which has contributed its greatest efforts to the achievement of that high purpose.

From statements made in recent months by the Japanese Ambassador in Washington, Admiral Nomura, to the Secretary of State, Mr. Hull, in the course of conversations between them, as well as from the utterances of responsible Japanese Officials, the Government of the United States has derived the hope that it was also the desire of the Government of Japan to maintain and preserve peace in the area of the Pacific. The reports which are now reaching the American Government are so completely contrary to those statements and utterances that the Government of the United States finds it very difficult to believe in the truth of those reports.

Should Japan enter upon a course of military aggression and conquest it stands to reason that such action would render

At a time like this all sorts of rumours are abundantly bred not only in Japan but in all countries.

It is hardly necessary to state that the prevention of the European War from spreading to the regions of Greater East Asia and the maintenance and preservation of peace in the area of the Pacific have always been the sincere and genuine desire of the Japanese Government which have consistently contributed their greatest efforts toward achieving that high purpose.

~~It must also be clear to unpartisan and unbiased observers that Japan has never embarked, and will never embark, upon the course of military aggression and adventure. (Misgivings on this point, if any, must have been eliminated upon Japan's conclusion of the Basic Treaty with the Nationalist Government of China at Nanking in November last: for instance, Japan officially undertook not to claim an inch of China's territory; furthermore, she even engaged herself not to exact one yen by way of indemnity on account of the hostilities still unfortunately going on despite her efforts to terminate them.)~~

The Japanese Government wish to state, in reply to the last paragraph of the Message, that they have at no time considered the possibility of entering upon unprovoked hostilities against the Soviet Union. ~~However, they owe it to candour to add that Japan finds herself in a most delicate and awkward position as regards the war between her Allies and the Soviet Union.~~ ^{The point of the Message regarding the Soviet Union} This fact was made clear in the Oral statement of July 2nd, 1941 of H.I.M.'s Foreign Minister to the Soviet Ambassador in Tokyo. One can do no better than attach hereto a copy

and the spirit of the Treaty of the pact to the same and which Japan will remain fully loyal

of

1383

大臣

次官

人事課長

487

(總19529)

電信課長

昭和十六年

七月八日

午後

華海發

(機)

極秘 館長符號

松岡 外務大臣

野村 大使

第四九號

男名才四三三號ニ関シ

アソレエー止トハ本使ノ命令ニ関シ先方ニ令見セシ

ニトアルモノヲ指スモノニシテ若杉、奥村、松平、岩畔、井

0 216

583 584

REEL No. A-0287

外機密

極秘

1383

Nothing → Matsuzaka

July 9, 1941

Teleg. No. 490

部第

電信寫

488

1383

486A

日 19 一九六八七 (略) 華府 七月九日後登

本管 十日發着

松岡外務大臣

野村大使

第四九〇號「外機密、簡要符號」

1. Does the term "economic cooperation" between Japan and China contemplate the granting by the Government of China to the Japanese Government or its nationals of any preferential or monopolistic rights which would discriminate in favour of the Japanese Government and Japanese nationals as compared with the Government and nationals of the United States and of other third countries? Is it contemplated that upon the inauguration of negotiations for a peaceful settlement

between Japan and China the special Japanese companies, such as the North China Development Company and the Central China Promotion Company and their subsidiaries, will be diversified, in so far as Japanese official support may be involved, of any monopolistic or other preferential rights that they may exercise in fact or that may inure to them by virtue of present circumstances in areas of China under Japanese military occupation?

2. With regard to existing restrictions upon freedom of trade and travel by nationals of third countries in Chinese territory under Japanese military occupation, could the Japanese Government indicate approximately what restrictions will be removed immediately upon the

0 218

0 217

540

外機密

1383

電信寫

489

1383

489A

entering into by the Government at Chungking of negotiations with the Government of Japan and what restrictions will be removed at later dates, with an indication in each case in so far as possible of the approximate time within which removal of restrictions would be effected?

5. Is it the intention of the Japanese Government that the Chinese Government shall exercise full and complete control of matters relating to trade, currency and exchange? Is it the intention of the Japanese Government to withdraw and to rein in the Japanese military notes which are being circulated in China and the notes of Japanese-sponsored regimes in China? Can the Japanese Government indicate how soon after the inauguration of the contemplated negotiations arrangements to the above ends can in its opinion be carried out?

(Over)

0 220

0 219

541

513

1383

付テハ別愛第四九〇號ノ旨ニ對シ
 我方ヨリ先方ノ納得ニ回答(案書文
 ハ提出シ来ラス)ヲ書翰ニテ取付ケン
 トせんモノナリ(了)

0 222

543

館長符號電信

512

1383 (總19660)

貴愛第三四五號ニ對シ
 自衛権ニ付テハ別愛第四八九號ノ旨
 答ノ書翰ヲ交換シ又並ニ別符號ニ

次官 松岡 外務大臣
 野村 大使

極秘 館長符號

0 221

542

電信課長

西

昭和十六年

七月九日

午後

省府發

七月十日

午前

本省著

亞米利加

次官 松岡

人事課長

ヒトノ馬ノ
ニシテモ

外機密

次官

亞米利加震

1383

電信寫

514

94

1383

514A

昭和16 一九六九〇 (暗)

華府 七月九日後發
本省 十日後着

松岡外務大臣

野村大使

第四八九號 (一) 外機密 (館長符號)

The Secretary of State to the Japanese Ambassador: In section 2 of the joint declaration which was entered into today on behalf of our two Governments, statements are made with regard to the attitudes of the two Governments toward the European war. During the informal conversations which resulted in the conclusion of this joint declaration I explained to you on a number of occasions the attitude and policy of the Government of the United States toward the hostilities in Europe and pointed out that this attitude and policy were based on the inalienable right of self-defense. I called special attention to address which (ツズク會中) of its own security, which have been set forth as indicated, the Government of Japan is not under any commitment which would require Japan to take any action contrary to or destructive of the fundamental objective of the present agreement, to establish and to preserve peace in the Pacific area. (tsuzuku)

0 224

0 223

544

外機密

1383

昭和16 一九六八 華府 七月九日發
本省 十日發着

松岡外務大臣

野村大使

第四八九號ノ二(外機密、酋長符號)

The Japanese Ambassador to the Secretary of State:

I have received your letter of June.

I wish to state that my Government is fully aware of the attitude of the Government of the United States toward the hostilities in Europe reexplained to me by you during our recent conversations and as set forth in your address of April 24. I did not fail to report to my Government the policy of the Government of the United States

as it had been explained to me, and I may assure you that my Government understands and appreciates the attitude and position of the Government of the United States with regard to the European war.

I wish also to assure you that the Government of Japan, with regard to the measures which the Government of the United States may be forced to adopt in defense of its own security, is not under any commitment requiring Japan to take any action contrary to or destructive of the fundamental objective of the present agreement.

The Government of Japan, fully cognizant of its responsibilities freely assumed by the conclusion of this agreement, is determined to take no action inimical to the establishment and preservation of peace in the Pacific area. (Owarri)

電信寫

515A

1383

515 A (CONT)

0 225

545

0 226

529 A (CONT)

1383

電信寫

529A

98
107

1383

外機密

昭和18 一九八〇〇 略 紐育 七月十日 後發
本省 十一日 前着

松岡外務大臣

森島總領事

第二八四號 館長符號扱

十四日附週刊雜誌「ニュース、ウィーク」ハ

(一)日米國交調整ニ關シ長ク非公式ノ交渉ヲ續ケ來ル兩國代表ハ

最近調整ノ可能性ヲ見出シタルモノノ如ク諸般ノ準備完了次第

公式ノ交渉開始セラルヘク

(二)支那事變ノ行詰リヲ自認セル日本ハ日支兩國ノ面子ヲ失ハサル

程度ノ和平交渉ヲナスヘク最近燕京大學ノ「ドクター、レイト

ン、ステュアート」ヲ重慶ニ派遣セルカ其際日本側カ和平條件

ニ關シ大イニ讓步セルニ對シ支那側ハ態度ヲ強化シ損害賠償ヲ

要求セリト報シ居レリ

米ニ郵送ス

0 228

0 227

546

外機密

1383

昭和16 一九六八八 (暗) 華府 七月九日後發
本省 十日發着

松岡外務大臣

野村大使

第四八九號ノ二(外機密、苗長符號)

The Japanese Ambassador to the Secretary of State:

I have received your letter of June.

I wish to state that my Government is fully aware of the attitude of the Government of the United States toward the hostilities in Europe reexplained to me by you during our recent conversations and as set forth in your address of April 24. I did not fail to report to my Government the policy of the Government of the United States

as it had been explained to me, and I may assure you that my Government understands and appreciates the attitude and position of the Government of the United States with regard to the European war.

I wish also to assure you that the Government of Japan, with regard to the measures which the Government of the United States may be forced to adopt in defense of its own security, is not under any commitment requiring Japan to take any action contrary to or destructive of the fundamental objective of the present agreement.

The Government of Japan, fully cognizant of its responsibilities freely assumed by the conclusion of this agreement, is determined to take no action inimical to the establishment and preservation of peace in the Pacific area. (Owari)

電信寫

529C
529C

1383

529C (CONT)

0 229

547

0 230

外機密

1383

昭和16 一九六五七 (略)

華府 七月九日午後
本管 十日 後着

岡村大使

松岡外務大臣

第四九〇號 外機密 局長 後着

電信寫

529D
529d

1383

529 D (CONT)

1. Does the term "economic cooperation" between Japan and China contemplate the granting by the Government of China to the Japanese Government of its nationals of any preferential or monopolistic rights which would discriminate in favour of the Japanese Government and Japanese nationals as compared with the Government and nationals of the United States and of other third countries? Is it contemplated that upon the inauguration of negotiations for a peaceful settlement between Japan and China the special Japanese companies, such as the North China Development Company and the Central China Economic Company and their subsidiaries, will be divested, in so far as Japanese official support may be involved, of any monopolistic or other preferential rights that they may exercise in fact or that may inure to them by virtue of present circumstances in areas of China under Japanese military occupation?

2. With regard to existing restrictions upon freedom of trade and travel by nationals of third countries in Chinese territory under Japanese military occupation, could the Japanese Government indicate approximately what restrictions will be removed immediately upon the

0 232

0 231

548

外機密

1383

電信寫

529 E
529 R

1383

529 E (CONT)

entering into by the Government at Chungking of negotiations with the Government of Japan and what restrictions will be removed at later dates; with an indication in each case in so far as possible of the approximate time within which removal of restrictions would be affected?

3. Is it the intention of the Japanese Government that the Chinese Government shall exercise full and complete control of matters relating to trade, currency and exchange? Is it the intention of the Japanese Government to withdraw and to rein in the Japanese military notes which are being circulated in China and the notes of Japanese-sponsored regimes in China? Can the Japanese Government indicate how soon after the inauguration of the contemplated negotiations arrangements to the above ends can in its opinion be carried out?

(Over)

0 234

0 233

549

外機密

1383

昭和16 一九六九〇 (暗) 華府 七月九日後發
本省 十日後着

松岡外務大臣

野村大使

第四八九號 (一) 外機密。館長符號)

The Secretary of State to the Japanese Ambassador: In section 2 of the joint declaration which was entered into today on behalf of our two Governments, statements are made with regard to the attitudes of the two Governments toward the European war. During the informal conversations which resulted in the conclusion of this joint declaration I explained to you on a number of occasions the attitude and policy of the Government of the United States toward the hostilities in Europe

and pointed out that this attitude and policy were based on the inalienable right of self-defense. I called special attention to address which (以下照會中) of its own security, which have been set forth as indicated, the Government of Japan is not under any commitment which would require Japan to take any action contrary to or destructive of the fundamental objective of the present agreement, to establish and to preserve peace in the Pacific area. (tsuzuku)

電信寫

529 F
529 F

1383

529 F (cont.)

550

0 235

0 236

極秘

3104

米局

日米交渉に關する件

昭和十六年七月十日

松岡外務大臣

過般野村大使より一應取次き來れる六月二十一日附日米諒解案及同日附オーラル・ステートメントに付ては本大臣は大體齋藤顧問の批判と其の所見を同ふするものなるか今回の諒解案に同意すると假定し尙左の諸點に關し特に注意を喚起し置き度

第一号
第五部ノ内

一、我國内閣の改造を求めたるもの、少くとも寧ろ露骨に其ヒントを與へたるものにして斯くの如きは史上稀有の事に屬し強弱の度を著しく異にする國家間に於てのみ僅に其例あり(夫すら頗る稀なり)多くは屬國若くは保護國に臨む場合に於てのみ見らるる所なる事

IMT 557

159

551

3104

524

(註) 凡そ政府者か他國の内政に對する批判すら慎むものなり

- 二、米側提案の半はを輸入するとするも結局日本を三國同盟より離脱に導くものなる事
- 三、大東亞圈内新秩序建設なる皇國の根本方針と南京に於ける國民政府の承認、併て其の育成強化、飽迄重慶政權膺繼なる既定の重大國策を放棄せざるへからざる事
- 四、永年に亘り幾多の困難を排除し三度國運を堵し二十餘萬の生靈と巨大なる國幣を犠牲とし漸くにして其基礎を築き上げたる我東亞指導權確保の大方針を或程度變更し日支問題に英米の容喙を許し純て單に局限せられたる日支問題の解決即極東大局の安定すら爲す能はざるに至るへき事
- 五、太平洋全域(米は西半球に屬する太平洋は之に含ますと解し又之を主張すへきこと勿論なり)に亘り現狀即舊態制を是認し日米貿易すら戦前の状態に釘付けられ對米貿易のバランスを是正し將來

IMT 557

160

552

進て我方に有利なる發展への障害を造るの嫌ひある事

六日本は現状維持の陣營に赴くものなること即現状打破を標榜する

樞軸陣營に對し反旗を繙すものなる事

(註)若し皇國の存立と全人類の平和及福祉との爲に此際豹變せざる

へからざるものならば豹變亦必しも不可なし然れとも本大

臣の觀る所を以てすれば皇國をして拭ふへからざる不名譽を

永く竹帛に垂れしむると云ふ重大問題は暫く措くとするも斯

る豹變は斷して皇國自衛の道にあらざることを確信す

七日本に於て米國今日迄の對獨言説及行動を是認するに等しきもの

にして此點よりするも當然日獨伊同盟を離脱する決心を爲さざる

へからざる事

八日支事變及西南太平洋を含める全域一固より西半球太平洋は除く

に關し米國は日本と了解に達したりとの一事を以て内米國民を安

心せしめ外獨伊に對し日本の樞軸同盟離脱を仄かし依て以て歐洲

戰爭に對する米の參戰に使せんとするものにして即ち日本は之と

同調する者なる事

九將來に對て日支交渉に容喙し兼て亦右交渉其他に於て日本の行動

を監視し且非難攻撃の矢を向くるに有力なる素地を作り置かんと

するものなる事

(註)本項に關しては本諒解は其成立後二、三週間に公表せられ

直に米國上院の討議に附せらるべきものなることを記憶せさ

るへからす苟くも上院の議に上さるる場合議論囂々特に日本

攻撃の聲囂々たるものあるへく米國政府當路者に於て之を鎮

めんか爲め日本に不利なる幾多の言説を與ふることあるへき

を豫期し置かざるへからす之を豫想するに於て本了解は却つて

日米關係を今日以上紛糾せしめつつ獨伊より遠るかり否寧ろ
笑物にせらるる危險多分に伏在することを豫期せざるべから
ず

大要之米國の狙ひは日獨伊三國同盟を冷却せしめ一舉南京政府を抹
殺し日本をして重慶政権の正當なる中國政府なることを是認せしめ蔣介石
に和平を勸告し日支直接交渉に依ると雖も代償として其の基本條件は
日本政府より米國政府へ提議せしめ米國政府之を是認したりとの
建前の下に畢竟米（英）が仲介したりと云ふ事實を支那人及米國
々民に誇示し延て日本の大東亞圈建設の主張を根本より覆し飽迄
現状維持即舊體制確保に資せんとするものなる事
尙我國内に對しては我國政府要路者及民間に意見の對立あるこ
と殊に相當有力筋に於て衷心日獨伊三國同盟に快らざるもの多
數ありとの前提の下に益々我國論分裂の激化に導くことを狙ひ
たるものなる事

備考
尙我が自衛權に屬する重大なる對ソ準備の當然の權利をも米國
に於て認めざるの態度に少くとも一應は默認を與ふるに等しき
破目に陥る事

結言
オーラル・ステートメントは苟も皇國の尊嚴と其獨立國なるこ
とを了解するからには嚴乎として其受理を峻拒すべきものなる
こと申迄もなき事なり唯獨案自體に關する交渉を是非共繼續
したし（米國か日本ならは無論疾くに憤然打切りたるなるべし）
とのことならは本大臣は本年五月決定せられたる我對案を堅持
しソツ以上列記したる諸點に何等影響なき少許の米國案字句を
取入るの他なしと信す而して遺憾乍ら之にては本件交渉の妥
結見込なしと斷するものなり併し之を打切るとせば時機及方法
に付慎重考慮を要す

（以上）